学則変更の趣旨等を記載した書類

目次

1 学則変更(収容定員変更)の内容 2

2 学則変更(収容定員変更)の必要性

ア 保健医療学部看護学科の収容定員変更の必要性.....3

イ 保健医療学部リハビリテーション学科（理学療法学専攻）
の収容定員変更の必要性 6

ウ 薬学部医療薬学科の収容定員変更の必要性 8

3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更の有無 9

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容 13

ア 教育方法 13

イ 履修指導方法 16

ウ 教員組織の変更内容.....17

4 大学全体の施設・設備の変更

(1) ３つのキャンパスの施設設備概要 19

(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画 21

5 ２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

(1) 看護学科校地別収容人員.....22

(2) 各校地の教育研究体制 23

(3) 各校地の教員指導体制 24

(4) ２以上の校地を往来する場合の教員の負担や学生への指導への配慮 25

学則変更の趣旨等を記載した書類

本学則変更の趣旨等を記載した書類には、湘南医療大学保健医療学部看護学科及びリハビリテーション学科理学療法学専攻の定員増に係る部分と薬学部医療薬学科の定員減に係る部分の両方を含んでおり、本文並びに資料の中で学科毎に区分して記載しています。

1 学則変更（収容定員変更）の内容

湘南医療大学（以下、「本学」という。）は、令和 8（2026）年4月1日より収容定員を変更する。薬学部医療薬学科は、入学定員を 130 名から 30 名減員して 100 名とし、収容定員を600名とする。保健医療学部看護学科は、入学定員を 140 名から 25 名増員して 165 名、収容定員を 660 名とする。また、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は、入学定員を40 名から 20 名増員して 60 名、収容定員を 240 名とする。本学全体の入学定員は 365 名、収容定員は 1,660 名であり、この収容定員変更の前後で本学全体の入学定員は、350 名から 15 名増加して 365 名に変更となるが、大学全体の収容定員の総数の増減は伴わない。

【本学全体の入学定員・収容定員の変更計画】 （単位：人）

学部	学科	専攻	入学定員			収容定員		
			変更前	変更後	増減	変更前	変更後	増減
保健医療学部	看護学科		140	165	+25	560	660	+100
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	理学療法学専攻	40	60	+20	160	240	+80
		作業療法学専攻	40	40	±0	160	160	±0
		専攻計	80	100	+20	320	400	+80
	学部計		220	265	+45	880	1,060	+180
薬学部	医療薬学科		130	100	△30	780	600	△180
	学部計		130	100	△30	780	600	△180
大学全体合計			350	365	+15	1,660	1,660	±0

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念をもとに、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命として、教育活動を実践している。

本学の理念に基づき、高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じ、大学の責務として、開学以来一貫して地域社会からの要請に応えるべく、改善や向上の方策の検討を不断に行っている。このため、今回の収容定員の変更は必要不可欠であると考えている。

ア　保健医療学部看護学科の収容定員変更の必要性

保健医療学部看護学科は、2015 年(平成 27)年に開設され、2019（平成 31）年に第 1 期生を輩出し、2025（令和 7）年 3 月末までの 7 年間に 565 名の看護師資格者を有する人材を育成してきた。特に、関連病院などの施設の特徴から、地域に根差した医療の提供への貢献と地域における看護の提供と実践を大切にした教育の向上を目指している。

その間、2022(令和 4)年には、旧中央大学附属中学・高等学校跡地に横浜山手キャンパスを設置し、地域の医療機関等の要請を受けて看護学科の入学定員を 80 名から 140 名に増員し、1 年生及び 2 年生の校舎として使用し看護師養成に貢献している。

近年、少子化が進む中にあっても、直近 3 か年の志願者数は、2023 年度が 510 名、2024 年度が 358 名、2025 年度が 342 名と比較的に安定して推移している。(表 1)

(表 1)湘南医療大学 保健医療学部看護学科

大学名	入学年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	歩留率	入学定員充足率
湘南医療大学	2025	140	342	327	297	160	2.44	53.9%	114.3%
	2024	140	358	331	269	147	2.56	54.6%	105.0%
	2023	140	510	494	190	140	3.64	73.7%	100.0%

また、就職支援についてもきめ細かい指導により、令和 6 年度の卒業生数 74 名中、就職者数 72 名（神奈川県内 68 人、神奈川県外 4 名（地元就職率 94.4%））及び進学者数 2 名となっており、高い就職実績をあげている。(表 2)

(表 2)湘南医療大学　保健医療学部　看護学科

年度	卒業生数	進学者数		就職者数	未定・その他	就職率	進学率	
		大学院	その他				大学院	その他
平成30年度	82	0	1	77	4	95.0%	0.0%	1.2%
令和元年度	78	0	0	71	7	91.0%	0.0%	0.0%
令和2年度	95	3	0	87	5	94.5%	3.1%	0.0%
令和3年度	86	0	1	82	3	96.4%	0.0%	1.1%
令和4年度	82	0	3	79	0	100.0%	0.0%	3.6%
令和5年度	77		1	76	0	98.7%	0.0%	1.3%
令和6年度	74	1	1	72	0	97.2%	1.3%	1.3%

2019（平成 31）年には、高度助産実践能力と研究能力を有する助産師の育成のため大学院保健医療学研究科助産学領域を設置し、さらに、がん看護、感染看護などの高度実践看護師（専門看護師）の育成にも努め、看護実践能力の高い看護師の育成、保健医療学部分野の教育者、研究者の育成にも実績を上げている次第である。

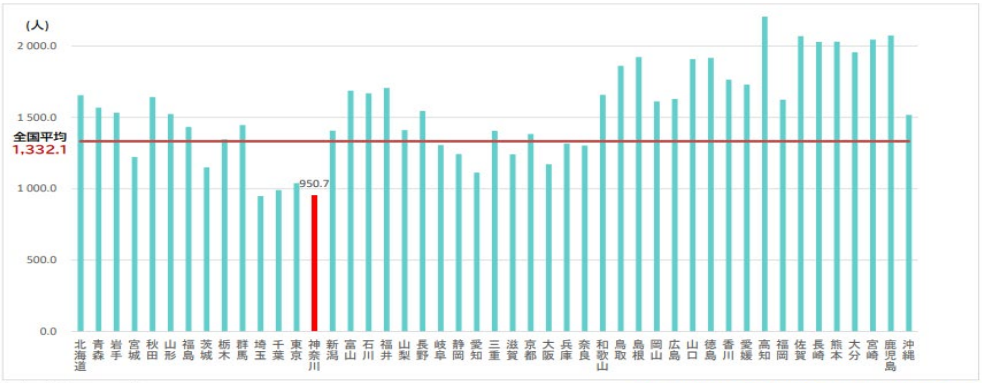
そして、2022（令和４）年には、看護師免許有資格者を対象とする実践家としての助産師及び保健師の養成を目的とする、大学専攻科（1 年制　公衆衛生看護学専攻、助産学専攻）も同時に設置し、地域医療の発展並びに看護師のキャリア支援にも力を注いできた。

このように、大学開設以来、学部教育、大学院教育、専攻科教育を実践するとともに一連の看護教育研究活動を通じて、大学の使命である教育研究成果を実践現場である社会にも還元しているところである。

このたび、看護学科の入学定員を増員する理由は、本学の看護学科の志願者の希望を満たすことの他に、2040 年に 1,006 万人に達す 85 歳以上の要介護認定率が 6 割に達し、自宅で療養する高齢者の在宅医療のニーズが高まることが予測される。訪問診療が必要な患者数は 40 年には 1 日 10.9 万人となり、20 年 1.36 倍に増加するため、地域医療に必要な優秀な看護師及び保健師の需要が更に高まり、供給力が必要になっているからである。

本学が位置する神奈川県は、「R4 衛生行政報告書例（就業医療関係者）」（令和４（2022 年）のデータ(資料 01)から、人口 10 万人あたりの神奈川県の就業看護職員数は 950.7 人であり、全国の 1,332.1 人に対して、全国 46 位とである（図１）。また、二次保健医療圏別就業看護職員数（図 2）は、地域偏在がみられ、川崎北部、県央、湘南東部で県平均を下回っている。年齢階級別就業者割合（図 3）では、40～49 歳の看護師が多くなっている。看護職員（常勤）の離職率（図 4）は、近年 14%前後で推移しており、全国平均を上回っている。

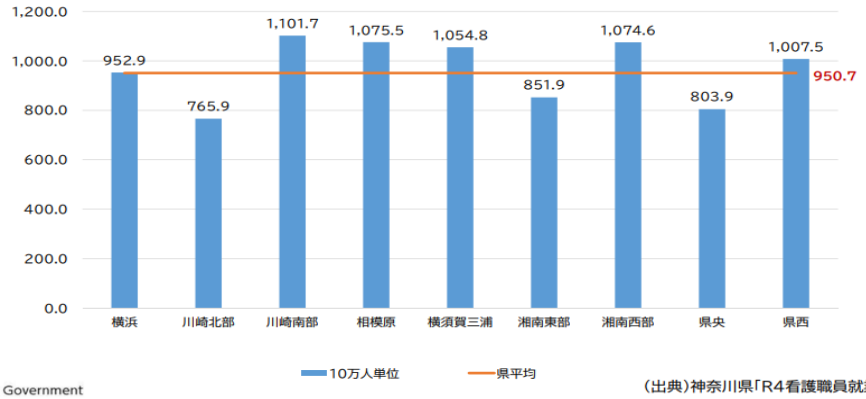
（図 1）



Kanagawa Prefectural Government

（出典）厚生労働省「R4衛生行政報告例（就業医療関係者）」

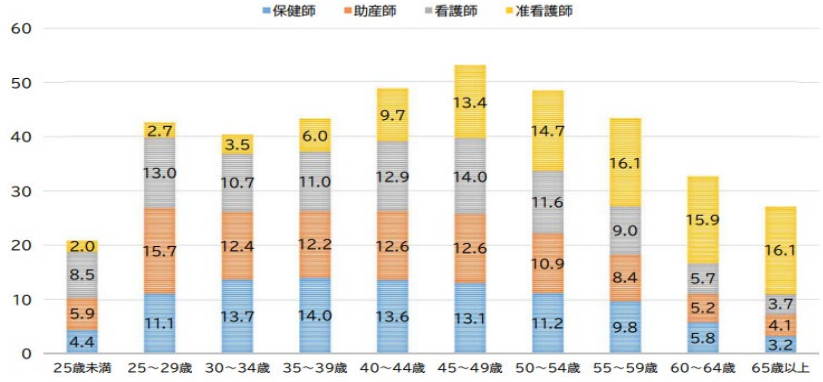
（図２）



Kanagawa Prefectural Government

（出典）神奈川県「R4看護職員就業実態調査」

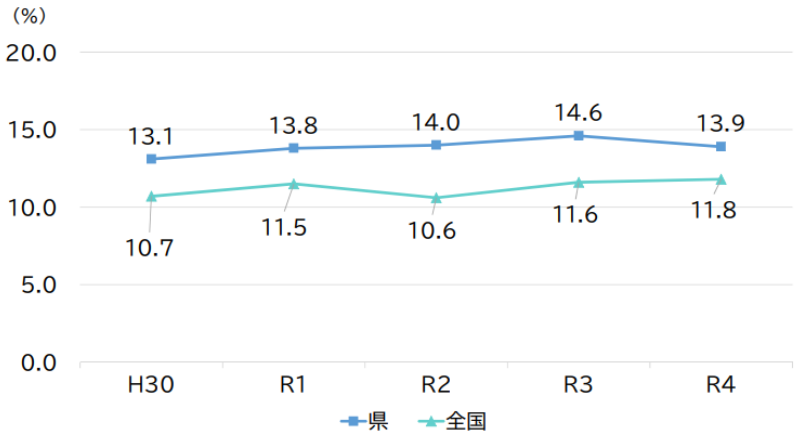
（図３）



Kanagawa Prefectural Government

（出典）厚生労働省「R4衛生行政報告例（就業医療関係者）」

（図４）



Kanagawa Prefectural Government

（出典）公益社団法人日本看護協会「病院看護実態調査」

上図が示す通り、恒常的な看護職員の人手不足は今後も避けられない喫緊の問題である。

このような社会的背景のもと、看護師育成を強化するために看護学科の入学定員増を計画するものである。

また、看護学科定員増に関して、公益社団法人日本看護協会及び神奈川県看護協会から本学看護学科における看護師養成人数の増加に関して、賛同書が提出されており、医療現場の看護師不足解消のため、早期の人材育成の期待が寄せられている。(資料 02)

なお、法人が設置する茅ヶ崎看護専門学校は、看護師国家試験において安定した合格率を維持し、多くの卒業生を県内医療機関へ輩出してきた実績があり、地域に根差した看護師養成機関として、社会的要請に応えてきた。しかし、近年の少子化による志願者数の減少や、学生の進路選択における 4 年制大学志向の高まり等を踏まえ、看護師養成機能を大学に集約していく方針の下、入学定員を 80 名から 40 名へと縮小することとした。

これにより、法人全体としての看護師養成数の急増を避けつつ、大学におけるより高度で体系的な教育体制の整備・強化を進めることが可能となる。本措置は、教育資源の再配分と教育の質向上を図るとともに、大学看護学科の収容定員増に必要な施策の一つである。(表 3・4)

(表 3) 茅ヶ崎看護専門学校看護学科　入試動向 (2023-2025)

入学年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2025	80	55	52	50	46	57.50%
2024	80	79	74	70	67	83.80%
2023	80	98	98	94	72	90.00%

(表 4) 茅ヶ崎看護専門学校看護学科　就職動向 (2023-2025)

卒業年度	卒業者数	就職希望者数	就職希望率	就職者数	就職率
2024	65	64	98.4%	64	100.0%
2023	61	61	100.0%	61	100.0%
2022	67	66	98.5%	66	100.0%

イ　保健医療学部リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) の収容定員変更の必要性

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は、2015(平成 27)年に開設され、2019 (平成 31) 年に第 1 期生を輩出して、2025 (令和 7) 年 3 月末までの 7 年間に 264 名の理学療法士資格を有する人材を育成してきた。2019 (平成 31) 年には、大学院保健医療学研究科に健康増進・予防領域及び心身機能回復領域を設置し、高度専門職業人として、能力の優れた理学療法士の育成、保健医療学分野の教育者、研究者の育成にも実績を上げている次第である。

近年、少子化が進む中でも、直近 3 か年の理学療法学専攻の志願者数は、2023 年度が 177 名、2024 年度が 135 名、2025 年度が 177 名と比較的に安定して推移している。（表 5）

（表 5）湘南医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

大学名	入学年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	歩留率	入学定員充足率
湘南医療大学	2025	40	177	173	61	49	4.43	80.3%	122.5%
	2024	40	135	122	70	44	3.38	62.9%	110.0%
	2023	40	177	172	56	43	4.43	76.8%	107.5%

また、就職支援についてもきめ細かい指導により、令和 6 年度の卒業生数 44 名中、就職者数 41 名（神奈川県内 36 人、神奈川県外 5 名（地元就職率 87.8%））及び進学者数 1 名となっており、高い就職実績をあげている。（表 6）

（表 6）湘南医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

年度	卒業生数	進学者数		就職者数	未定・その他	就職率	進学率	
		大学院	その他				大学院	その他
平成30年度	36	0	0	32	4	91.4%	0.0%	0.0%
令和元年度	38	1	0	34	3	91.8%	2.6%	0.0%
令和2年度	36	0	0	34	2	94.4%	0.0%	0.0%
令和3年度	44	1	0	42	2	95.4%	2.2%	0.0%
令和4年度	40	0	0	39	1	97.5%	0.0%	0.0%
令和5年度	33			31	2	93.9%	0.0%	0.0%
令和6年度	44	1	0	41	2	95.4%	2.2%	0.0%

このたび、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を増員する理由は、本学のリハビリテーション学科理学療法学専攻を志願する受験者の希望を満たすことの他に、超少子高齢社会の到来により、急性期医療のニーズが減少していく一方、高齢者が社会復帰するために入院したまま数週間に渡りリハビリテーションを受けるニーズが増大していることに起因する。つまり、急性期医療の体制を縮小し、理学療法士らを含む多職種連携でリハビリテーションを支える「回復期医療」「生活期医療」を手厚くする改革が求められている。

厚生労働省は、2025 年度までに、回復期病床は 13 万床から 37.5 万床まで増やす必要があったが、回復期病床は、21.5 万床までしか増加しない見込みである。回復期リハビリテーション病棟の増加により要介護認定者や認知症高齢者に対する専門的な知識・技術を有する理学療法士を必要とする施設が今後とも増えていくものと予測されている。

このような社会的背景のもと、理学療法士育成を強化するためにリハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員増を計画するものである。

なお、公益社団法人神奈川県理学療法士会から本学リハビリテーション学科理学療法学専攻における理学療法士養成人数の増加に関して、賛同書が提出されており、医療現場の理学療法士不足解消のため、早期の人材育成の期待が寄せられている（資料 03)。

また、当該収容定員変更においては、法人が設置する茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科を閉科し、その教育機能を大学に統合する方針に基づくものである。

理学療法士に求められる知識･技能は年々高度化しており、4 年制大学における体系的な教育･研究を通じて、より質の高い専門職人材を育成する必要性が高まっている。こうした背景を踏まえ、法人内の教育資源（教員・実習施設等）を大学に集約し、教育の質を一層高める体制を整備する。また、近年の学生の進学傾向としても、専門職養成において 4 年制大学が選好される傾向にあり、大学への進学希望者の受け皿の拡大をする必要があると考えている。

以上により、本定員増は、法人の教育再編の一環であり、教育の質の向上と地域社会に貢献する理学療法士の安定的な養成を目的とする、必要かつ妥当な措置と考えている。(表 7・8)

（表 7）茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科　入試動向（2023-2025）

入学年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2025	70	53	52	51	49	70.00%
2024	70	65	65	65	61	87.10%
2023	70	80	80	66	62	88.60%

（表 8）茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科　就職動向（2023-2025）

卒業年度	卒業者数	就職希望者数	就職希望率	就職者数	就職率
2024	50	50	100.0%	49	98.0%
2023	49	49	100.0%	49	100.0%
2022	67	67	100.0%	62	92.5%

ウ　薬学部医療薬学科の収容定員変更の必要性

薬学部医療薬学科は、令和 3 年に開設し、医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的としている。

この教育目的のもと、入学定員 130 人、収容定員 780 人として学生募集を行い、学部の教育計画が履行できるように教員配置及び施設設備の整備を計画どおり実施して十分な教育効果を上げている。

しかし、学生募集に関しては、コロナ禍での初年次学生募集の開始、本学薬学部の認知度の低さ、本薬学部の無実績、及び薬剤師の需給予測によるリスク増大、18 歳人口の減少など社会的影響を受け苦戦している。特に、新型コロナ禍の影響を受け、薬学部認可日が、2020（令和 2）年 10 月 23 日と遅れ、予定していた総合型選抜入試等がほぼ実施不可となり、初年度の令和 3（2021）年度入学生 34 名（入学定員充足率 26%）であった。

以降の入学者数は、2022（令和 4）年度 66 人、2023（令和 5）年度 79 人、2024（令和６）年度 61 人、2025（令和７）年度 49 人となり、入学定員充足に向けて入学者数が向上したものの、未充足の状況が続き、過去 5 年間の平均入学定員充足率は 49.0%である。(表 9)

(表 9)湘南医療大学 薬学部医療薬学科

大学名	年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	歩留率	入学定員充足率
湘南医療大学	2025	130	170	161	138	49	1.31	35.5%	37.7%
	2024	130	145	138	136	62	1.12	45.6%	47.7%
	2023	130	243	229	195	78	1.87	40.0%	60.0%

本学部は AC 期間中であり、完成年度(2027 年 3 月)を未だ迎えていない。入学定員充足率が低位であっても教育体制に影響を及ぼすことはないものの、卒業時に身につける能力、国家試験結果、就職率等、外部評価前の入学定員変更は、マイナス評価としてステークホルダーに対する信頼の損失につながる恐れがあると考えている。

しかし、本学部は、これまで以上に教員一人あたりに対する学生数を適切に定め、課題解決型授業を定着させるなど、教育の質の向上のために学部の目的に沿った、より効果的な教育効果を達成することを最優先に考えることが先決であり、本学部の信頼を高めることを考えて、入学定員を 130 名から 30 名減員して 100 名に変更するものである。

3　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1)　教育課程の変更の有無

今回、保健医療学部看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員増並びに薬学部医療薬学科の入学定員減に伴う各学科の教育課程の変更は行わない。2026（令和 8）年度以降も現行の教育課程を継続する（資料 04)。但し、収容定員が 100 名増加する看護学科は、その教育環境および教育内容を維持するためのキャンパスの増設を行う。さらに、定員増を行う 2 学科の教育環境及び教育内容が低下しないための対策を以下にその内容を説明する。

(保健医療学部看護学科)

保健医療学部看護学科は、2022(令和 4)年のカリキュラム改正時に行った教育課程（カリキュラム）を継承する。科目区分は変わらず「総合教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」である。「総合教育科目」は大学共通科目として設定しており、チーム医療に必要な科目は、他学科と合同で学べるよう必修科目として配置している。

また、「専門基礎科目」も看護に必要な科目を精選し、教育内容から単位数と時間数と配当年次も考慮した。さらに科目区分「専門科目」は、中区分を「基盤科目」「応用科目」「発展科目」に分け、1・2 年次には主として「基盤科目」と「応用科目」の一部を段階的に学修できるよう配置している。そして、対象者の健康状態をアセスメントする科目（ヘルスアセスメント学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)、看護スキル科目（ナーシングスキル学Ⅰ・Ⅱ)、問題/課題解決思考科目（ナ―シングプロセス学Ⅰ・Ⅱ)、看護専門職としての意識を育むプロフェッショナリズム科目を段階的かつ系統的に学修できるよう 1 年次から 4 年次まで配置している。

臨地実習科目は、日本の人口構成の変化に対応すべく成長発達段階別（ライフサイクル別）に細かく区切られていた実習ではなく、健康レベルを軸に関連した実習体制で実施する点が特色である。様々な場で生活するあらゆる年代の人々への看護を学修するために、低学年時から実習を学習進度別及び健康領域別に 6 つの実習を行っている。初年次には、入学後 2 ヶ月で臨地に赴き、「あらゆる場で生活する人を理解する」目的の体験実習を行う。 2 年次には「病気を持つ人への看護を問題解決思考で捉えて実践する」看護基盤実習を行う。3 年次には健康レベルを軸に専門性が高い「健康を維持・増進する人への看護」「慢性的な病を持つ人への看護」「急性的な病を持つ人への看護」を行い、4 年次には「既習の知識や技術を統合する看護」で構成している。

なお、これらの臨地実習は、病院や福祉施設、訪問看護ステーションなど、神奈川県内を中心に大学関連施設の臨地で実習を行い、これら実習科目の目的を達成できる実践的な学びを提供している。

この教育課程（カリキュラム）に基づいて教育を行っているが、看護学科の卒業要件は、「総合教育科目 30 単位以上（必修 15 単位および選択 16 単位以上)」「専門基礎科目 24 単位以上（必修 22 単位および選択 2 単位以上)」「専門科目 48 単位以上 (必修 46 単位および選択 2 単位以上)」の単位である。また、保健師国家試験受験資格を取得する者（※注１）は、公衆衛生科目 16 単位を履修し合計 142 単位以上を取得する。

※注１　保健師国家試験受験者のコースは、２０２５年度卒業生をもって終了する。

先述したように、この教育課程（カリキュラム）と卒業要件は継続して行う。しかし、入学定員の増加に対応すべく教育環境については、キャンパスを増設し拡大して対応する。現行の東戸塚キャンパスに新たに茅ケ崎キャンパス（仮称）の 2 校地を開設し、教育環境として十分なスペースを確保する。運用面は、東戸塚キャンパスと茅ケ崎キャンパス（仮称）を有効に活用するため、希望キャンパスを選択する選択制を採用する（詳細な方法は後述)。

キャンパス選択制による学生の 2 キャンパス分散が生じるが、前述の共通の教育課程（カリキュラム）を 2 キャンパスにおいて実行する。つまり、看護学科全科目において統一されたシラバスと教材を使用し、教育内容および評価基準の一貫性を担保する。

適切な学生数とキャンパススペースを確保するとともに、両キャンパスにおいて同じ教育課程を行うことで、教育の均質性を確保でき、同一の充実した教育により段階的・系統的教育課程を実施する。

(保健医療学部学リハビリテーション学科理学療法学専攻)

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員増に伴う教育課程の変更は無く現行の教育課程での教育を実施する。

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の現行の教育課程は、以下の 3 点をコアとして展開している。

①専門知識に基づいた高い理学療法の実践能力の教育

②チーム医療を発揮できる教育

③地域に貢献できるリハビリテーション専門職の教育

理学療法学専攻の教育課程の科目区分は大きく「総合教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」の 3 区分である。

「総合教育科目」は、大学共通科目として幅広い視野で人間を理解する科目の充実を図るために「人間とコミュニケーション」、「人間と文化」、「人間と健康」、「人間と情報」、「人間と環境」、「人間の本質と尊厳」の 6 区分に分類している。これらの内、「人間と文化」、「人間と情報」、「人間の本質と尊厳」は 1 年次に履修し、その他の科目群は 2 年次、4 年次にも履修できる教育課程である。

「専門基礎科目」は、理学療法教育の基盤となる「人体の構造と機能および心身の発達」区分として解剖学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ、生理学及び人間発達学などの基礎医学系の 12 科目を配置した教育課程である。

「専門科目」は、「基礎理学療法学」、「理学療法管理学」、「理学療法評価学」、「理学療法治療学」、「専門共通」、「地域理学療法学」、「臨床実習」の 8 区分で構成している。

「基礎理学療法学」は、理学療法の要となる「理学療法概論」、「臨床運動学」など 8 科目を、「理学療法管理学」は、臨床場面のリスク管理から人事などを含めた職場管理を教授する。「理学療法評価学」は、「検査測定学概論」、「検査測定学演習」のほか「動作解析学」など 6 科目を配置し、「理学療法治療学」は、「運動器系理学療法学」、「神経系理学療法学」、「発達系理学療法学」、「老年期理学療法学」、「物理療法学」、「日常生活活動学」、「義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」、「高次脳障害学」など理学療法の専門技術と知識の教授する演習を含めた 21 科目が配置している。

また「専門共通」は、リハビリテーション医療に関連するトピックス的な領域を選択履修できるよう「司法精神科作業療法」、「生活支援機器論」、「ウーマンズヘルスケア」、「スポーツ理学療法学」など 6 科目を配置し興味関心のある科目を選択履修ができるようにしている。「地域理学療法学」は、「バリアフリー」、「地域理学療法学演習」など 4 科目配置し、「臨床実習」は、1 年次の「見学実習（理学療法)」、3 年次の「評価学実習」、「地域リハビリテーション実習（理学療法)」、4 年次の「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ（理学療法)」の計 20 単位の臨床実習科目群を配置し、学内講義と臨床現場での学びの融合と統合解釈を促している。

臨床実習は、本学の関連機関であるふれあいグループ病院の急性期病院から回復期病院などの 17 病院（神奈川県中心に静岡県、東京都）を軸に、関連のクリニック、介護老人保健福祉施設、在宅支援施設、福祉施設等 48 箇所を含め、訪問リハビリテーション実習の見学などを体験できる体制であり、救急救命から在宅まで臨床実習ができるキャパシティーを有している。

理学療法学専攻の卒業要件は、「総合教育科目は 27 単位以上（必修 11 単位、選択 16 単位以上）」、「専門基礎科目は必修 34 単位」、「専門科目は 66 単位以上（必修 63 単位、専門共通 2 単位以上と地域理学療法学 1 単位以上）」合計 127 単位以上を取得する。

従って、現行のリハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程は、20 名定員増に伴う教育環境並びに臨床実習への対応を含め、質の高い教育が提供できる教育課程である。

(薬学部医療薬学科)

薬学部医療薬学科の入学定員減に伴う教育課程の変更は無く、令和 8（2026）年度以降も現行の教育課程を継続する。

科目の配当年次は、総合教育科目、基礎科目、専門科目の科目区分とともに決定している。

薬学部では、研究マインド、臨床実践能力を持った質の高い薬剤師の養成を主たる目的としている。このような目標のために、学習成果基盤型教育を基本とし、改定薬学教育モデル・コアカリキュラムに示された「薬剤師に求められる基本的な資質」の内容の履修に 7 割、本学部のディプロマ・ポリシーに基づく資質を卒業目標として掲げ、独自の授業科目に 3 割を充て、基礎から専門へと体系的かつ効率的に修得できるよう教育課程を編成している。

1 年次は大学共通科目の「総合教育科目」及び「薬学基礎科目」を中心とし、薬学の基本と社会との関わりを学ぶとともに、「早期臨床体験実習」により薬剤師への動機づけを図る。英語は 1 年次から 5 年次まで必修で継続的に学習し、語学検定への対応や選択科目も充実させている。

2 年次以降は「薬学基礎科目」を中心に専門性を深め、社会的視点からの問題発見力を培い、「衛生薬学」「医療薬学」を学び、薬の作用や疾病の予防・治療に関する基礎力を修得する。また、医療人として必要な教養と科学的・論理的思考力を養成する。3 年次には「衛生薬学系」「医療薬学系」科目も学び、研究の基礎と重要疾患など薬学臨床科目の学びを通じて実務に必要な力を統合的に学ぶ。4 年次では「チュートリアル演習」や「卒業研究」に着手し、5 年次は病院・薬局での「実務実習」および「臨床体験」を行う。6 年次は、卒業研究を完成させて、知識を活用して研究課題に取り組み、問題解決力を養い、総まとめの学習を行う。倫理観、使命感、協調性、コミュニケーション能力などは 6 年間を通じて段階的に育成し、薬剤師に求められる科学的基礎力、薬物療法および地域医療における実践力、研究能力を年次ごとに修得できるよう教育を設計している。

薬学部の卒業要件は、本学に 6 年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、196 単位以上を取得していること。その内訳は、総合教育科目では 21 単位以上（必修科目 15 単位及び選択科目 6 単位以上)、基礎科目は、必修科目 5 単位、専門科目は、170 単位以上（必修科目 167 単位、選択科目 3 単位以上）を履修し、合計 196 単位以上を取得する。

(2)　教育方法及び履修指導方法の変更内容

ア．教育方法

(保健医療学部看護学科)

保健医療学部看護学科は、入学時に 4 年間の修学場所を東戸塚キャンパス(１学年最大 90 名)、または茅ケ崎キャンパス(１学年最大 80 名)の一方を選択できる 2 キャンパス体制を採用する。教育方法は、両キャンパスとも、2022(令和 4)年のカリキュラム改正時の教育課程に基づき、かつ現行の教育方法及び履修指導方法で実施する。

但し、授業は、それぞれの専門領域や授業形態(講義・演習・実習)によって、教授体制(学年全員か複数グループ/コマ数)は異なる。

両キャンパスとも、教育の均質性を確保するため、以下の点に配慮する。

① 全ての科目において共通のシラバスおよび教材を用い、担当教員間での定期的な協議を通じて教育内容および評価方法の統一を図る。

② 講義科目については、各キャンパスに基幹教員を配置するとともに、非常勤教員についても可能な限り共通して担当させることで、教育の質の均一化を図る。知識の理解を目的とする教育内容は講義形式を中心とする。科目の教育目標に応じてオムニバスによる授業や少人数のグループ学習、学生の参加型学習等双方向型の学習を展開する。

これまでと同様に、態度・指向性および技術や技能の修得を目的とする科目は演習形式による授業とし、学生の主体的・能動的な学びを引き出す。さらに、看護実践能力育成の基盤となる対象者の健康状態をアセスメントする科目（ヘルスアセスメント学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)、看護スキル科目（ナーシングスキル学Ⅰ・Ⅱ)、問題/課題解決思考科目（ナ―シングプロセス学Ⅰ・Ⅱ）は演習形式で行うが、学生一人一人がスキルを習得体験できるように配慮した学生及び教員配置で行う。1 ベッドあたり 3 名の学生（患者、看護師、観察者役のローテーション）で配置し、各キャンパス２6－29 ベッドで演習を行う予定である。(資料 05)

教員は各キャンパスの基幹教員を中心にして教授するが、理論的知識や技術を実践に応用する能力を身につけることを目的にする教育内容では、実習形式による授業とする。

このように、「ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「ナーシングプロセスⅠ・Ⅱ」「ナーシングスキルⅠ・Ⅱ」は、１～３年次の講義・演習科目として位置づけ、配置キャンパス及び領域横断的に多数の教員(5～18 名)を配置し、対象者の健康状態をアセスメントする知識と技術、問

題/課題を解決するための思考、そして看護実践スキルを徹底的に強化する。

これらの科目と並行してライフステージ及び分野別の「成人」「老年」「小児」「母性」「精神」「在宅」「地域」の各看護学応用科目も配置して、それぞれの特徴を教授する。この少人数・段階的・系統的科目配置と教育方法の工夫によって、看護の基盤となるアセスメント力・問題/課題解決思考・看護実践能力を育成することが可能となる。

ウ　臨地実習は、両キャンパスの所在地において、ふれあいグループ※教育協力病院・施設を確保しており、各領域とも 165 名以上の実習生を受入れて実習が支障なく実施可能な体制を整えている。※ふれあいグループ 施設一覧(https://www.fureai-g.or.jp/fureai-g/facility/)

概要は前述したが、初年次の早期に Early Exposure として「看護基盤実習Ⅰ」を配置し、看護職が活動するあらゆる場での実習を行う。実習施設は、主に大学関連のふれあいグループ施設（専門病院 16 病院、その他施設 51 施設）や公的機関等を使用する。2 年次は、これまでと同様に「看護基盤実習Ⅱ」として入院生活を送る対象者への実習を実施するが、学生数増に伴い増員した教員が、領域横断的に関わることで、少人数制の実習を可能にする。

また、これまで成長発達段階別に細かく区切られていた実習による弊害を克服するために、「ヘルスプロモーション実習」「急性期看護実習」「慢性期看護実習」の 3 実習としている。「ヘルスプロモーション実習」では、地域で生活する人々の環境やライフスタイル・ライフステージと健康との関連を考えた実習を行う。「急性期看護実習」では、急激な健康状態の変化をきたした対象者及び家族への看護をヘルスアセスメントⅠ～ⅢやナーシングスキルⅠ・Ⅱで習得した知識と技術を用いて、問題解決思考に則り実習を行う。「慢性期看護実習」では、慢性疾患を抱えあらゆる場で療養・生活している対象者がその人らしく生きられるよう地域包括ケアシステムの一員として活動できる基礎的能力を獲得する実習を行う。包括的な実習の組み立てへの変更により、領域横断的になり各実習に配置できる教員の人数も確保できる。

2025 年度の実習グループは、学生 1 グループ 8 名-10 名を基準とする体制で実施しているが、実習には支障はなく、非常勤を含む実習指導教員を各グループに配置して円滑に行われている。入学定員増により、実習学生数が増加した場合も、現行の編成を増加して対応できる。また、学修目標、実習内容、指導体制等において同等の学修成果が得られるよう配慮し、定期的に施設との連絡調整会議や実習指導者会議を実施する。

（保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

① 理学療法学専攻における授業方法は、知識の理解を目的とする科目については講義形式の授業形態とし、必要に応じてオムニバスによる授業を展開する。また、技術の修得、少人数のグループ学習、学生参加型・双方向型の授業については、演習形式による授業形態とし、学生自らの主体的・能動的な学びを促すよう工夫している。さらに、講義・演習で得た知識・技能を統合し実践に結びつけるために実習を配置する。

② 講義内容に応じた学生数については、教育目的を効果的かつ確実に達成するために講義形式の科目では教員１名で 60 名を担当し、演習形式の科目では補助の教員が２名加わって教員３名で 20 名を指導するように設定する。また見学実習（理学療法）は１施設につき５～６名、評価学実習と総合臨床実習Ⅰ（理学療法）・総合臨床実習Ⅱ（理学療法）は、１施設２～５名の学生実習を配置している。（資料 06）

③ 配当年次は、総合教育科目か専門基礎科目、専門科目へと体系的な学習が可能となるようにする。特に専門科目は、専門基礎科目で修得した医学的基礎知識を土台として、知識、技術、実践・応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に配当する。

（薬学部医療薬学科）

本学部の授業は、教育目的により講義、演習、実習の３つの授業形態で実施する。

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については講義形式を中心とする。

また、態度・指向性および技術や技能の修得を目的とする教養教育については演習形式による授業形態とすることとし、学生の主体的・能動的な学びを引き出すことができるようにする。特に、薬学基礎及び専門科目区分の一部の演習においては、２クラスに分けて授業展開する。さらに、理論的知識や技術を実践に応用する能力を身につけることを目的にする教育内容は、実習形式による授業形態をとることとする。

また、学生のモチベーションを低下させないための教育手法として、オムニバスによる授業や少人数のグループ学習、チュートリアル学習、ゼミ形式の研究・演習を行い、学生の参加型学習等双方向型の学習を展開する。

① 講義は、知識の修得及び理解を目的とする。学生が主体的かつ能動的に学習するよう対面授業だけでなく反転授業や PBL などのアクティブ・ラーニング形式の授業を多く取り入れる。

② 演習は、知識の理解及び技術の修得を目的とし、学生は主体的・能動的に課題に取り組むことにより知識及び技術を定着させる。学生はスモールグループディスカッション（SGD）、ロールプレイが実現できる、チュートリアル教育なども実施して、講義や演習で得た知識、技術を深化させる。

③ 実習は、知識の理解、技術の修得に加え、態度を統合的に学修することを目的とする。

④ 入学定員変更後、講義及び演習の学生数は、1 学年につき 1 クラス 100 人を基本とする。専門科目の多くは大講義室（153 人収容）を使用して 100 名で講義を行う。なお、授業内で行う

演習はテーマに応じて 1 グループを 2～6 名程度として実施する。外国語科目は「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の 4 要素を取り入れた実践的な授業内容とするため、中講義室（65 人収容）を使用して 3 クラス編成（1 クラス 33 人程度）とする。

実習の学生数は、1 クラス 100 人、1 グループ 6 人を原則とする。また、研究実習は、学生の配属希望に併せて 1 学年 1 研究室に 5～6 人程度で 17 研究室の配属を原則とする。

イ． 履修指導方法

看護学科の履修指導方法は、 1 年次には「看護基礎ゼミ」、4 年次には「看護応用ゼミ」で履修指導を実施する。履修登録上限の範囲内で無理なく、効果的な学修法を指導する。

また、リハビリテーション学科理学療法学専攻の履修指導方法は、チューター教員が学生の進路に合わせて選択科目を履修できるように、登録上限の範囲内で無理なく効果的に学べるように指導する。

なお、両学科とも一学期間に履修が集中しないよう年間の履修科目の登録上限は５０単位、半期の履修科目の登録上限を３０単位としている。

以下ア～エの 4 項目に掲げた内容で、大学共通の履修指導を行う。また、随時、各キャンパスの事務部教務担当での履修指導も行っており、今後も適切な履修指導を行う。

① GPA 制度を活用した履修管理: 本学は、成績を数値化する GPA 制度を導入している。当該制度を使うことで、学生が責任を持って履修計画を立てている。成績良好の場合、履修できる単位数が増加する一方で、成績不振者には履修制限を課すなど履修指導を仕組みがある。このように成績に基づいて履修計画が調整され、学習の質が向上する工夫を行っている。

② チューター制度: チューター制度は、教員が学生一人ひとりに対してきめ細かな面談を実施し、将来の目標や興味、進路についてヒアリングし、それに基づいて適切な科目を提案する指導を行う。また、学生が履修科目に関して困難が生じればチューター教員に相談できる体制がある。これにより、学生の学習意欲を向上させる支援や、授業外での個別の補習プログラムの時間を確保するなどの成果をあげている。

③ シラバスを活用した学習ガイド: シラバスに授業の計画や評価基準を詳しく記載しており、学生が自身の目標に合った授業を選べるよう工夫されている。

なお、教育内容および学修成果の均質性を確保するため、両キャンパスの教員による合同カリキュラム検討会を年に複数回実施し、教育課程の実施状況や成果の分析・改善に努める。

④ クラウド型教育支援「manaba(マナバ)」: 大学が導入する学習管理システムとして課題管理や情報発信機能により、授業の事前事後の学びを支援している。また、ポートフォリオとしてレポート評価が蓄積され、学生一人ひとりの学修支援環境が提供されており、学習の振り返りなどに活用している。

(薬学部医療薬学科)

① 指導体制

オフィスアワーにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整える。オフィスアワーの利用状況の管轄は、教務委員会とし、年１回、各教員から学生の利用状況の報告を受ける。

なお、学生の生活面を指導するチューターは、オフィスアワーの利用状況によっては、授業担当者との連携を行う。さらに、学年別履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて履修科目の選択に関する助言を行うなど個別の履修相談にチューターが応じることができるように、学生の履修指導を行う。また、学生自身で学習目標に沿った授業科目履修ができるように学生に「カリキュラムマップ」を提示し、履修ガイダンスをする。

また、保健医療学部と同様にクラウド型教育支援「manaba(マナバ)」を導入しているため、学生一人ひとりの学修支援のデジタル環境も提供されている。

② ガイダンス

入学直後に履修ガイダンスを開催して、「学生便覧」及び「シラバス」に基づいて、6 年間の学修に必要な事項・情報を説明し、指導する。6 年間の教育課程の編成と学修計画の立案、履修方法、受講方法、学修方法、学生生活に必要な事項について指導する。

ウ． 教員組織の変更内容

（保健医療学部看護学科）

本学保健医療学部看護学科は、東戸塚キャンパスに加えて、茅ヶ崎新キャンパスにおいても東戸塚キャンパスと同一のカリキュラムに基づき教育を実施する予定である。両キャンパスにおいて、教育内容及び学修成果に差が生じないよう、教員組織の体制を整備する。

2025 年 5 月 1 日時点での看護学科の助手を含む教員体制は、東戸塚キャンパスと横浜山手キャンパスの教員合わせて、教授 16 名、准教授 9 名、講師 8 名、助教 9 名、助手 1 名　計 43 名（内、看護師有資格者 43 名）である。

収容定員 660 名の場合、大学設置基準の規定教員配置数 21 名に対して、既に 2 倍以上の教員数を配置しているが、看護学科の収容定員増に対応し、2026 年度から 3 年間で段階的に 9 名の基幹教員を増員する。

キャンパス毎の教員数は、学部長、学科長を除き、東戸塚キャンパスには基幹教員 26 名（教授 8 名、准教授・講師 10 名、助教・助手 8 名)、茅ヶ崎キャンパスには基幹教員 26 名（教授 8 名、准教授・講師 10 名、助教・助手 8 名）総計 52 名の教員の配置計画を行う。

また、教育分野のバランスについても、両キャンパスともに基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護学、臨床看護学、地域看護学、公衆衛生看護学の各分野の教員の中から、1 年・2 年次生は、総合教育科目、基礎科目、看護基礎・地域

看護、統合分野を担当する教員を配置し、また、3 年・4 年次生は、看護専門分野（看護実習含む）の教員を配置する。

当該計画において 2028 年度には､収容定員 660 名に対応する看護学科教員数は 52 名となる。教員 1 人当たりの学生数は、12.6 人となる。大学設置基準法定教員数を超えており、教育の質の低下を招かない学生指導体制を整備する。

また､看護学科長のもと各キャンパスに教育領域ごとの責任者を決定し､各領域における授業および実習指導などの教育方針と内容を常に協議することにより教育の質を保ち、教育の平準化を図ることが可能である。加えて、教員の平均実務経験年数は東戸塚が約 14 年、茅ヶ崎が約 16 年と、実務経験にも偏りはない。

なお、定年退職等で教員数が減少する場合には、欠員補充を行うが、補充する際には、年齢構成等のバランスを考慮しつつ各看護専門領域の専門性を高めるために、その分野の授業科目を担当するのに適切な教員を配置していく。

以上､両キャンパスにおいて同等以上の教員組織が確保されており､看護教育の質に差異が生じることはない。

(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)

2025 年 5 月 1 日時点でのリハビリテーション学科の教員体制は、教授 10 名、准教授 5 名、講師 7 名、助教 2 名計 24 名（内、理学療法士及び作業療法士有資格者 23 名）である。

大学設置基準の規定教員配置数 14 名に対して、既に 1.7 倍以上の教員数であるが、収容定員増に対応し、2026 年度から 3 年間で段階的に 6 名の基幹教員を増員する。

専攻毎の教員数は、理学療法学専攻の基幹教員 18 名（教授 8 名、准教授・講師 7 名、助教 3 名)、作業療法学専攻の基幹教員 12 名（教授 4 名、准教授・講師 6 名、助教 2 名）総計 30 名の教員の配置計画とする。

当該計画において、教員数は大学設置基準規定教員数 14 名を超えており、教員 1 人当たりの学生数は 13.3 人である。なお、実技を含む演習科目では、60 名の演習の際には教員 2 名を適宜配置し､計 3 名の教員で教育効果を更に高めて､教育の質の低下を招かないきめ細やかな学生指導体制を整備する。

(薬学部医療薬学科)

2025 年 5 月 1 日時点での薬学部医療薬学科の教員体制は、教授 21 名、准教授 8 名、講師 9 名、助教 3 名　計 41 名である。

大学設置基準の規定教員配置数 30 名に対して、既に 1.4 倍の教員数である。また、教員一人当たりの学生数は、15.8 人である。収容定員を 100 名に減員(-30 名)した場合には、大学設置基準の規定教員配置数は 28 名であるが、薬学部完成年度の翌年度（2027 年度）から段階的に基幹

教員を減員し、総計 37 名を計画する。また、2032 年度（収容定員変更後完成年度）には教員一人当たりの学生数は、16.2 人となり、現在と概ね同数を維持する。

なお、実務家教員は、継続的に 10 名以上配置し教育効果を更に高める。そして、教育の質の低下を招かないきめ細やかな学生指導体制を整備する。

基幹教員のうち、完成年度の令和８(2027)年 3 月までに定年を超える者が 12 名含まれるが、新任教員の採用は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障の無いよう、職位、年齢等を考慮して、学部の円滑な運営を維持できるよう人事計画に基づき公募により補充する。

但し、大学運営上引き続き勤務させる必要があると認めた定年退職教員については、特任教員等として勤務させることができる「特別任用教員に関する規程」が制定されているので、教員組織の維持に特段の問題は生じない。

４． 大学全体の施設・設備の変更

（１） ３つのキャンパスの施設設備概要

今回申請する 25 名の看護学科入学定員増により、保健医療学部看護学科がある神奈川県横浜市戸塚区の東戸塚校地、横浜市中区山手町の横浜山手校地に加え、新たに神奈川県茅ケ崎市に茅ケ崎校地(2025 年 1 月竣工)を整備する。なお、リハビリテーション学科理学療法学専攻及び薬学部医療薬学科については、既存の東戸塚校地で教育を継続する。

東戸塚校地は、穏やかな丘陵地帯で保存緑地を広く有し、静穏な地区である。また、緑豊かな横浜山手校地は、1920 年代から 1930 年代に西洋の外交官が使用していた邸宅が残る歴史地区である。そして、茅ケ崎校地は、茅ヶ崎駅南側には湘南海岸が広がり、商業エリアと自然環境のバランスが取れた湘南地域である。いずれの校地も大学としてふさわしい教育環境であり、学修に励むことができると考える。

今後、看護学科は、3 キャンパスのうち、東戸塚キャンパスと茅ヶ崎キャンパスの 2 キャンパスで現行カリキュラムのもと学部看護教育を実施する。但し、定員変更に伴う教育環境の変化に対して、現状の講義演習実施状況を精査確認し、施設設備面でも十分な対応を行う。

なお、現在看護学科 1 年次及び 2 年次で使用している横浜山手キャンパスは、体育館及び校舎の一部老朽化のため 2026 年度末（2027 年 3 月末）で使用を終了し、専攻科（公衆衛生看護学専攻、助産学専攻）の校舎として一部使用を継続する予定である。

○東戸塚校地（保健医療学部） （【所在地】：神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48）

東戸塚キャンパスの保健医療学部の校舎は、隣接した薬学部校舎並びに大学関連病院があり、本学の理念に叶う人材像を育成できる環境にある。鉄筋コンクリート造 9 階建、床面積約 15,300 ㎡の校舎に、看護学科、リハビリテーション学科生及び大学院生と共有して、大講義室（180 名収容×２室)、中講義室（90 名収容×8 室)、小講義室（45 名収容×11 室)、及び看護系実習室

5 室、リハビリテーション系実習室 9 室、その他、カンファレンス室、情報処理室、図書館、グループ学習室 2 室、体育館（637.07 ㎡）等を設置している。また、運動場（1,252.57 ㎡）は、同キャンパスから車で 19 分の横浜市戸塚区汲沢にあり、学生の課外活動にも活用する目的で整備されている。

なお、東戸塚校地での看護学科は、学年 140 名の受入れ体制の機能を既に有しているため、収容定員及びキャンパス体制の変更後も、１学年 85 名の受入れは十分可能である。また、理学療法学専攻においても、定員変更後は、大講義室 2 室、中講義室 8 室を有効に使用するため、講義室の環境は十分整っている。

○東戸塚校地（薬学部）　（【所在地】：神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-10）

東戸塚キャンパスの薬学部校舎は、隣接に保健医療学部校舎並びに大学関連病院があり、本学の理念に叶う人材像を育成できる環境にある。鉄筋コンクリート造地下１階・地上８階建、延床面積 11,134.27 ㎡の校舎に、大講義室（130 名収容× 4 室）、中講義室（65 名収容× 7 室）及び実習室 5 室（模擬薬局・病室含む）、オープンラボ 7 室、動物関連実験室 4 室、その他、ミーティングルーム 5 室、セミナー室 6 室、情報処理室、図書館、グループ学習室 2 室等を設置している。また、附属薬草園及び遊歩道を整備している。

○横浜山手校地　（【所在地】：神奈川県横浜市中区山手２７）

横浜山手校地は、旧中央大学横浜山手中学・高等学校を学校法人湘南ふれあい学園が校地校舎の譲渡を受け、改修整備を行い、湘南医療大学に移管して横浜山手キャンパスとして主に看護学科 1，2 年次生および専攻科（公衆衛生看護学専攻、助産学専攻）が活用している。

校地面積 5,127 ㎡、鉄筋コンクリート造 5 階建、延床面積 5,218 ㎡の校舎に、看護学科中講義室（70 人収容 3 室）、看護学科中講義室兼情報処理室（70 人収容 1 室）、小講義室（40 人収容 1 室）、カンファレンス室 6 室、専攻科講義室（20 人収容　2 室）、看護系実験・実習室 5 室（ヘルスアセスメント実習室１・２、看護学実習室、助産学実習室、公衆衛生看護学実習室）、学長室（１室）、教員共同研究室（2 室）、教員研究室（１１室）、図書室、厚生施設（売店、男女更衣室、学生休憩室）、管理（印刷室、非常勤講師室、カウンセリング室、医務室、事務室、応接室、会議室）、体育館（1,188 ㎡）及び運動場（2,005 ㎡）を設けている。東戸塚キャンパスにある保健医療学部看護学科と同等の機能を整備されている。

また、校地には、学生の休息その他の利用のための適当な空地に、ベンチなどが置かれ、休息やくつろぎの場が設けられている。

○茅ケ崎校地　（【所在地】：神奈川県茅ケ崎市茅ケ崎２丁目）

茅ケ崎校地は、本学関連病院である茅ヶ崎中央病院敷地内に設置しており、臨床教育には最適の教育環境である。

【概要】

１）面積

校地面積　5,922.61 ㎡　　校舎面積　4,436.35 ㎡

２）建物設備

大講義室（160 名収容１室)、多目的講義室（100 名収容（PC 対応）１室)、講義室（80 名収容×5 室)、カンファレンス室（8 室)、研究室（21 室）を置く。また、実習室は、実践基礎看護学実習室 1 室(ベッド 21 台)、成人老年臨床看護学実習室 1 室(ベッド 12 台)、在宅精神看護学実習室１室、母子生育看護学実習室１室(木浴槽 10 台)、小児看護学実習室(個室)として、各看護領域に対応した実習室を整備している。

また、学生が自由に学修できるメディアライブラリー(自学自習スペース)（155 ㎡)、学生ホール（2 か所)、図書室（90 席・286.90 ㎡）を設置し、蔵書数および閲覧席数も東戸塚キャンパスに設置してある現状の看護学修環境と同等以上の水準にある。

看護学科の設備は、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」（平成 27 年３月 31 日医政発０３３１第 21 厚生労働省医政局長通知）最終改正：令和５年５月 11 日医政発 0511 第５号に従い、既に、東戸塚及び横浜山手キャンパスに入学定員 140 名分の教育用機械器具・備品を設置しているが、定員増により必要な備品は、補充や既存備品の移動により行う。

また、リハビリテーション学科理学療法学専攻も同様に「理学療法士及び作業療法士学校養成施設指定規則」並びに指定規則に基づく「解説書」及び「設置にかかる留意事項」等に従い、定員増により必要な備品は補充する。

なお、全校舎の講義室には PC、プロジェクター及び大型スクリーンが複数設置されて視聴し受講できる ICT 環境が整備されている。

（２） 図書等の資料及び図書館の整備計画

東戸塚校地は、保健医療学部図書館及び薬学部図書館が設置されている。また、横浜山手校地にも図書室が設置されている。設置学部・研究科の分野を中心に幅広い分野の和洋図書及び和洋雑誌をとり揃えている。3 か所の図書館には、2025 年 3 月 31 日現在、図書約 2.6 万冊、定期刊行物約 464 種類、視聴覚資料 815 点、電子書籍 47 冊を所蔵している(資料 07)。毎年図書員会において、各学科教員の希望を参考に予算の範囲内で選定の上、追加購入してきており、各学科に必要な資料、文献を既に保有している。

茅ヶ崎校地は、看護学科の教育研究の進度に照合し、必要な図書を横浜山手キャンパス並びに東戸塚キャンパスと連携して配置する。開設時には約 1,000 冊の専門図書を揃え、本学科の教育研究活動が更に充実するよう予算化し、蔵書数を追加していく予定である。

3 キャンパスともに、資料検索は、蔵書検索システムによる WEB 検索が可能である。

また、ポータルサイトによる他のキャンパス資料の取り寄せの申し込みや貸出中図書の予約申し込み等ができる教育環境を整備している。利用可能なデータベースは、医中誌 WEB、メディカルオンライン、最新看護検索 WEB など 69 の医療系データベースの利用が学内外で可能。また、電子ジャーナルは、2,608 種類が閲覧可能である。

東戸塚キャンパスの保健医療学部図書館閲覧席数は 176 席、AV 視聴席 6 席、グループ学習室 22 席を整備している。薬学部図書館閲覧席は、184 席、AV 視聴席 8 席、グループ学習室 24 席を整備している。また、横浜山手キャンパスの閲覧席は 119 席、AV 視聴席 6 席、グループ学習室 2 室 20 席を整備している。また、茅ケ崎キャンパスの閲覧席数は、72 席、AV 視聴籍 27 席、グループ学習室(2 室 18 席)を整備する。

以上、定員変更後も教育の質を確保する上でいずれの校地も大学教育を行えるふさわしい教育環境であり、必要な施設・設備が同等以上に整備されており、学生の教育・学修に支障はないものと考えている。

５．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

（１）看護学科校地別収容人員

現在、湘南医療大学保健医療学部看護学科では、教育課程の学年に応じて以下の 2 キャンパスを使用している。

学年	使用キャンパス
1・2 年次生	横浜山手キャンパス
3・4 年次生	茅ケ崎キャンパス

本学は、教育研究環境のさらなる充実と地域医療人材の育成を目的として、保健医療学部看護学科の入学定員を 165 名、収容定員 660 名に増加し、併せて 2026 年 4 月に「茅ヶ崎キャンパス(新設)」を開設して学科運営を行う。これに伴い、2026 年度以降の看護学科入学生は、入学時に「東戸塚キャンパス」又は「茅ヶ崎キャンパス」のいずれかを選択し、4 年間を通じて同一キャンパスでの運用体制へと移行する。

（※2026 年度以降の入学生は、横浜山手キャンパスの使用を予定しない。）

新たなキャンパス選択制の概要（2026 年度入学生以降）

キャンパス	選択	学科	学年	概要
東戸塚キャンパス	希望制	看護学科	1 ～ 4 年	現在の看護学科 3・4 年次教育を行っている本学の拠点で一貫教育
茅ケ崎キャンパス	希望制	看護学科	1 ～ 4 年	新設キャンパス（2026 年 4 月開設）にて一貫教育

両キャンパスは、教育課程の内容および教育研究資源の質の均一性を確保した地域に貢献する看護教育を展開する。また、キャンパスの選択は入学試験時に学生本人の希望をもとに行うが、各キャンパスの学年定員を東戸塚キャンパス 85 名（4 学年収容定員数 340 名）、茅ヶ崎キャンパス 80 名（4 学年収容定員数 320 名）と定め、原則として 4 年間を通じて変更は行わない。

看護学科校地別収容人員

キャンパス	変更前収容定員	変更後収容定員
横浜山手キャンパス	280 名（1・2 年次）	0 名
東戸塚キャンパス	280 名（3・4 年次）	340 名（1～4 年次）
茅ヶ崎キャンパス	0 名	320 名（1～4 年次）
合計	560 名	660 名

（2） 各校地の教育研究体制

保健医療学部看護学科の教育課程は、1・2 年次は看護基礎基盤教育期間、3・4 年次は、看護応用臨床教育期間として、講義・演習・実習を体系的に順次制を考慮して編成する。そのため、両キャンパスの基幹教員が有機的連携を図り、質の高い看護教育を実践する。

（1、2 年次）【目的】看護プロフェッショナルの意識づけと質の高い看護教育の実践

両キャンパスとも 1,2 年次の感受性豊かな時期にリベラルアーツの総合教育科目も含めた看護学の基盤となる授業科目を学ぶことにより、看護スキル能力の育成と看護プロフェッショナルへの精神を養う。

（3、4 年次）【目的】看護臨地実習の利便性を生かしたチーム医療教育の実践

両キャンパスとも臨地実習に必要な臨床施設や老人ホームが隣接しているため、臨床教育に最適な看護実践教育の環境が整備されている。3,4 年次は看護臨床実践科目や臨地実習教育により、その能力育成成果を看護実践の場でさらに習得させるが、これらのスキル能力は看護専門職の基礎となるものである。これらの実践教育により、豊かな人間性と質の高い専門性を併せ備えた人材の養成に寄与する。また、演習室や専門図書も充実しているため、臨地での経験を学内で振り返り、情報共有することが容易である。

さらに、看護学科では、「チーム医療論Ⅱ（4 年次）」をリハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）及び薬学部※と学部学科を超えて共同開講している。茅ヶ崎キャンパスの 4 年次生は、当該科目開講期間は、ZOOM または茅ケ崎キャンパスで対面演習により学修するが、当該科目は、３・4 年次に臨地実習で体験した知識をディスカッションする機会となり、本学の設置趣旨の「臨床現場でチーム医療できる人材の養成」を体験できる。また、東戸塚キャンパスでは、大学院研究科も開講されているため、卒業年次生が自らのキャリアデザインにつながる機会がある。
※薬学部は、2026 年度から開講する。

（３）各校地の教員指導体制

両キャンパスに、同数の基幹教員を配置し、下記のクラス編成をもとに各教員の専門領域の授業を開講する。演習時教育体制の強化を図るため、必要時他キャンパスの教員が移動し、支援する場合もある。

① 総合教育科目（語学及び体育以外）は、現行 70 人×2 クラス（教室 1、オンライン 1）を東戸塚校地は 85 人×1 クラス、茅ヶ崎校地は 80 人×1 クラスに変更し、実施する。
② 専門基礎科目は、現行 70 人×2 クラス（教室 1、オンライン 1）を東戸塚校地は 85 人×1 クラス、茅ヶ崎校地は 80 人×1 クラスに変更し、実施する。
③ 専門科目のうち講義科目は、現行 70 人×2 クラス（教室 1、オンライン 1）を東戸塚校地は 85 人×1 クラス、茅ヶ崎校地は 80 人×1 クラスに変更し、実施する。
④ 専門科目Ⅰのうち演習科目は、現行 35 人×４クラスを 40～43 人×4 クラスに変更し、東戸塚校地及び茅ヶ崎校地で各々実施する。
⑤ 実習科目は、８～１０名×１７グループで編成する。

上記のクラス編成を基本とした講義演習を実施するが、2 校地間での連携・交流学修の多様化として、下記のようなオンラインによる共同学修・演習を活用して、教育の可能性を引き出す授業を展開する。実習においては、両キャンパスの学生が、実習先である病院などで合流するため、さらに密な共同学習体制を構築し、学習成果の充実を図る。

①グループワーク型演習のオンライン実施
2 校地の学生が Zoom などを用いて混成チームを編成し、「地域包括ケア」「感染対策」などのテーマに対し共同で情報収集・整理・プレゼンテーションを行う。他校地の学生と協働することで、多様な価値観や看護観に触れる機会を創出し、協働的問題解決能力を養うことが可能になる。

②シミュレーション演習のオンライン連携

一方の校地で実施するシミュレーション演習（例：救急看護）を他校地に中継し、観察・コメント・質疑応答をオンラインでリアルタイムに行う。それにより、現場さながらの緊張感と即応性を保ちつつ、他校地との教育の平準化が可能になる。

③共同での事例検討（ケーススタディ）

2 校地の学生が、共通の患者事例に対して、倫理的・臨床的課題を議論し、最適な看護支援を導くディスカッションをオンラインで実施も可能である。多角的視点から看護実践を考察し、実践知の深化につながる。

（4） 2 以上の校地を往来する場合の教員の負担や学生への指導への配慮

保健医療学部看護学科は、東戸塚と茅ヶ崎の 2 校地に教育・研究拠点を置く体制を整備し、2 校地とも同一の教育課程（カリキュラム）内容で実践する。教育の均質性と効率性を確保する観点から、原則として、学生は入学時から卒業時まで同一キャンパスで受講し、両校地間を往来することがない体制にする。

また、教員は、両校地に同人数の教員を配置する。演習科目の授業担当教員の移動などの必要性が認められる場合を除き、校地間を往来することはなく、どちらか一方の校地に研究室を持ち、オフィスアワーも設定して学生の希望やニーズに対応できるように配慮する。

なお、両校地間で、オンラインシステムや教材共有システムも活用し、授業、学生指導および教員間の連携を図ることができるため、問題は生じないと考えている。

※(資料 08)両校地間は、最寄駅からキャンパスまで歩行時間を入れても約 45 分（電車時間 25 分）で移動が可能。

※(資料 09)例：演習科目ナーシングスキル Ⅰ スケジュール案

その他、2 キャンパスに所蔵されている図書・資料は、相互貸借により、在籍するキャンパスに取り寄せて利用することができる。

また、管理運営面では、積極的にリモート会議システムを採用し、定期的に 2 校地を繋いで会議や委員会が行えるように情報共有システム等を活用して連携し、情報を一元化し、時間割や授業計画の調整を行うなど、教職員の負担軽減と教育の質的担保を両立する運営体制を構築する。

以上、東戸塚及び茅ヶ崎の 2 校地で教育研究を行い、相互に有機的連携を行うことにより、本学が目指す質の高い看護人材養成を行うものである。

学則変更の趣旨等を記載した書類(資料)

目次

【資料 01】 看護職員就業実態調査結果及び医療従事者届結果（概要） 2
【資料 02】 公益社団法人日本看護協会及び神奈川県看護協会の賛同書 13
【資料 03】 公益社団法人神奈川県理学療法士会の賛同書 15
【資料 04】 教育課程等の概要 16
【資料 05】 看護学科実習施設配置 28
【資料 06】 リハビリテーション学科理学療法学専攻実習施設配置.....31
【資料 07】 2024 年度図書館資料蔵書一覧.....32
【資料 08】 東戸塚キャンパス茅ヶ崎キャンパス間の移動図 33
【資料 09】 2 キャンパス 講義演習シュミュレーション.....34

神奈川県
KANAGAWA
https://www.pref.kanagawa.jp/

報告資料3

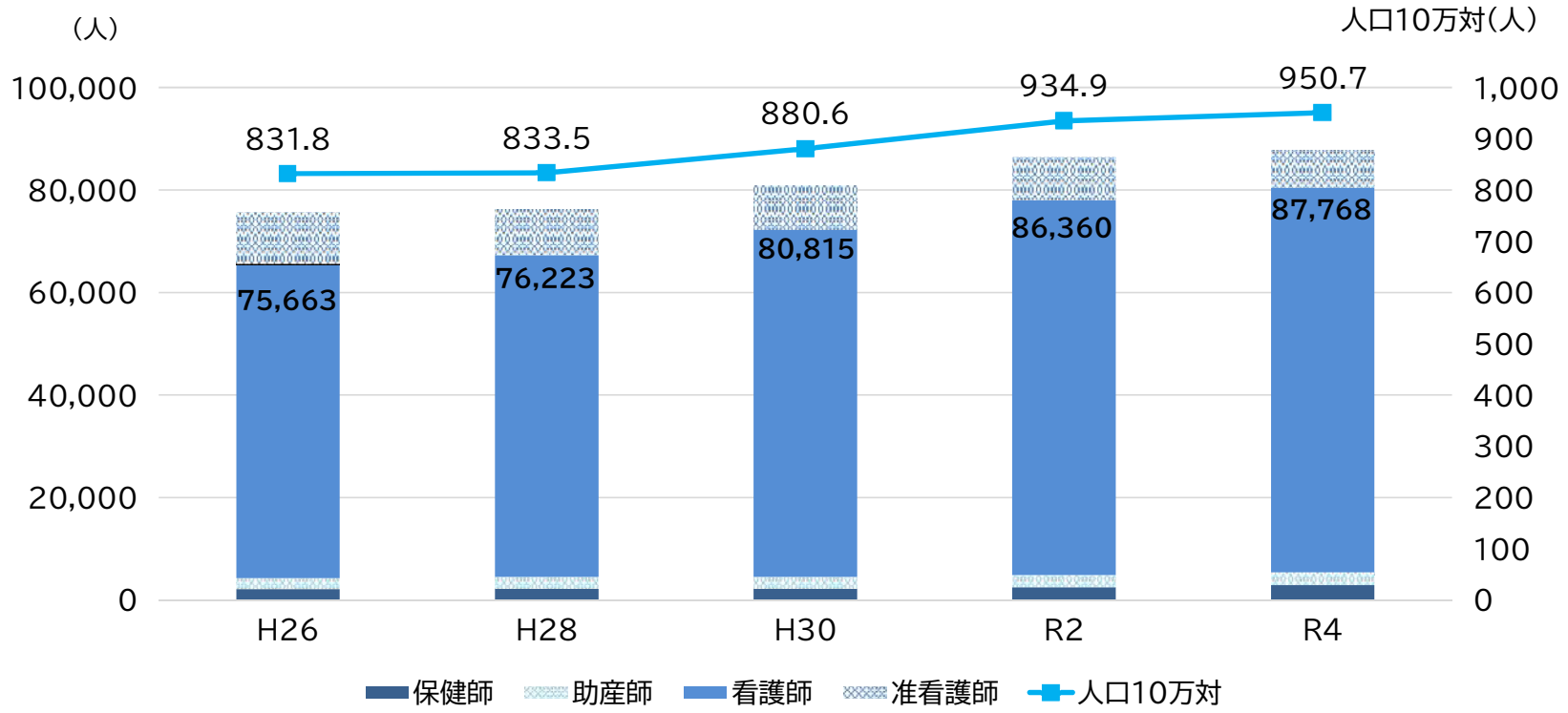
看護職員就業実態調査結果及び医療従事者届結果（概要）

医療整備・人材課
2024.8.27

Kanagawa Prefectural Government

1　看護職員数について　①就業看護職員数の推移

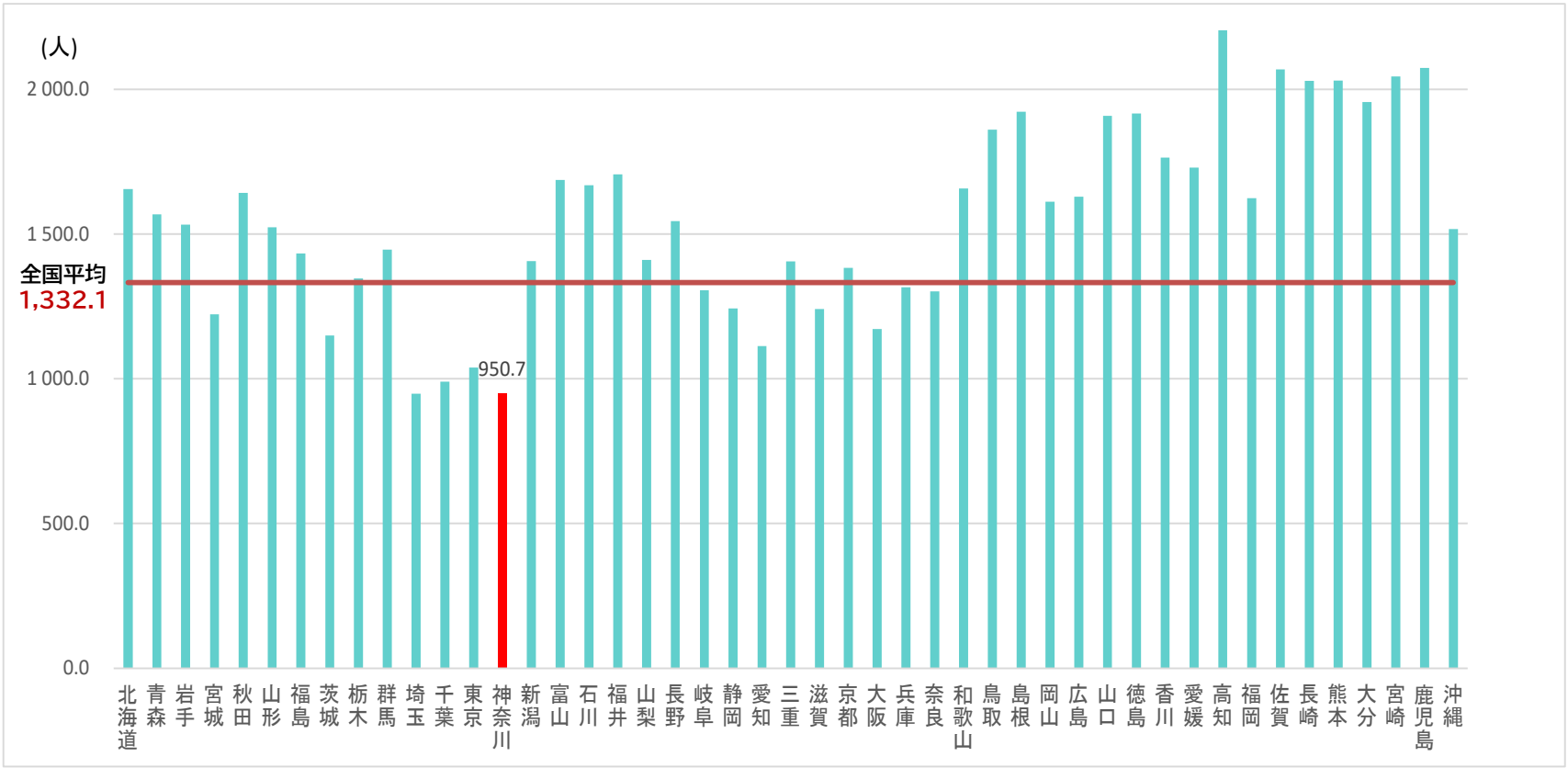
本県の就業看護職員数は年々増加しており、令和4年12月末時点で87,768人
本県の人口10万人当たりの就業看護職員数は、950.7人。



（出典）厚生労働省「衛生行政報告例（就業医療関係者）」

1　看護職員数について　②人口10万対就業看護職員数

人口10万人当たりの就業看護職員数は、全国の1,332.1人に対し、本県は950.7人であり、全国46位となっています。

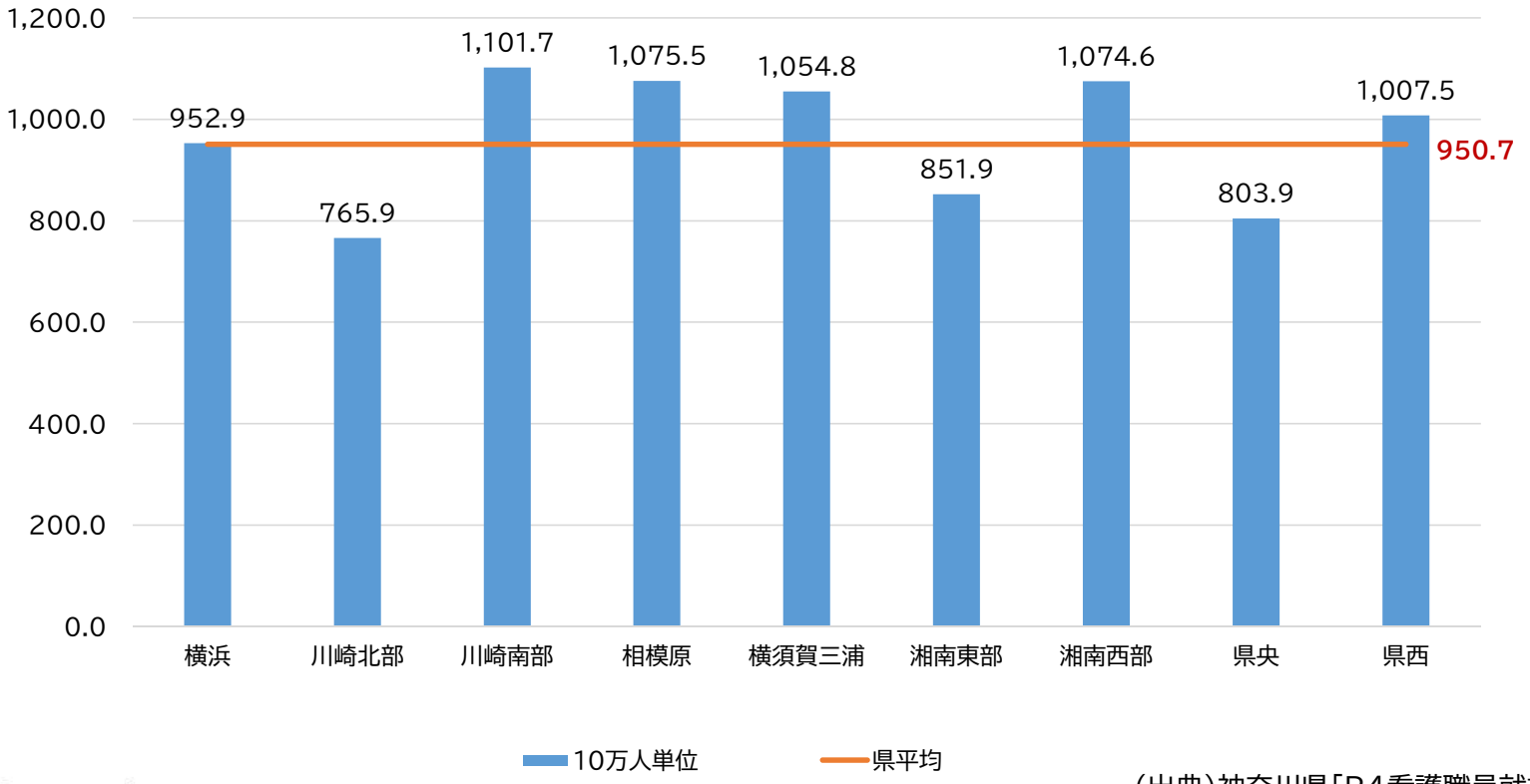


Kanagawa Prefectural Government

（出典）厚生労働省「R4衛生行政報告例（就業医療関係者）」

1　看護職員数について　③人口10 万対二次保健医療圏別就業看護職員数

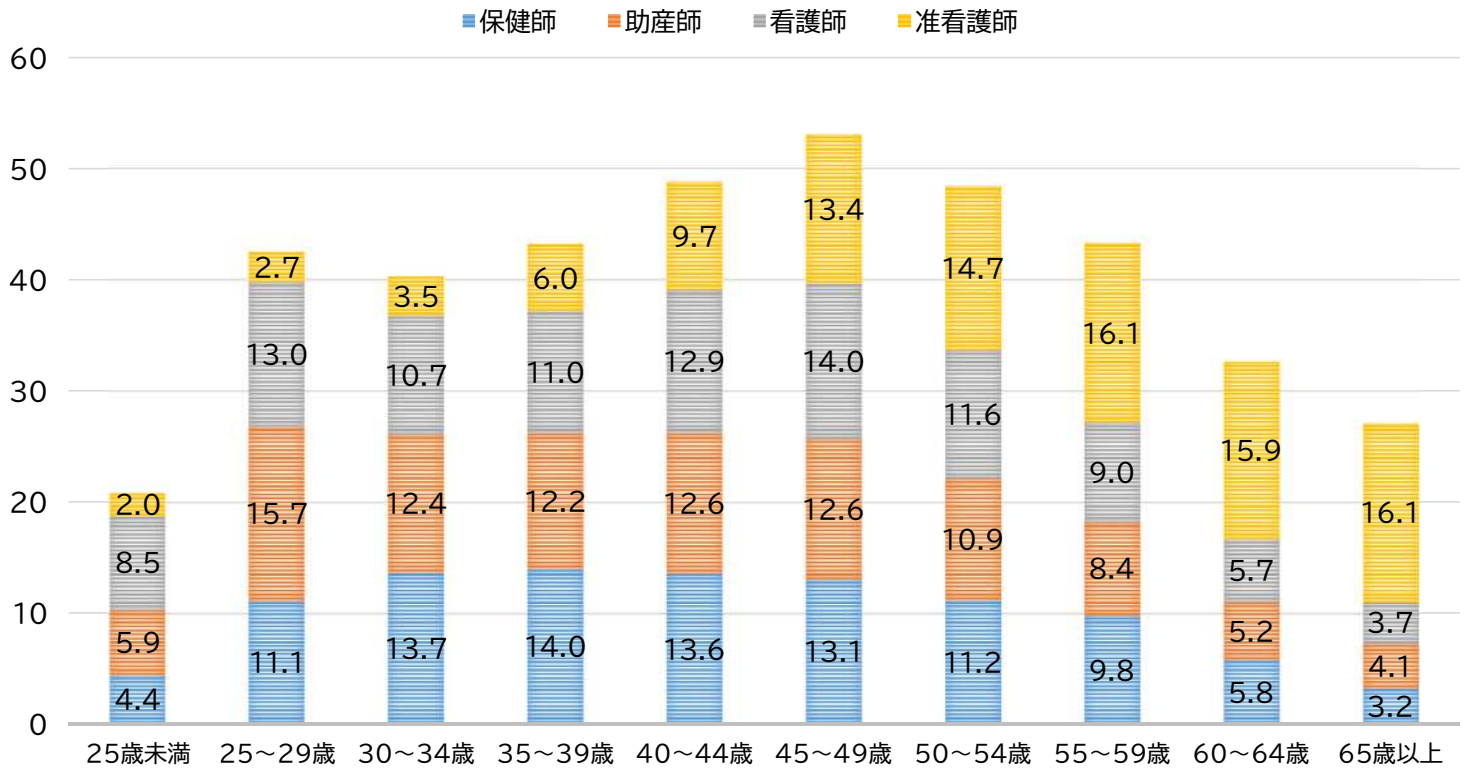
人口10 万人当たりの就業看護職員数は、二次保健医療圏別に偏在があり、
川崎北部、県央、湘南東部で県平均を下回っています。



（出典）神奈川県「R4看護職員就業実態調査」

2　就業状況について　①年齢階級別就業者割合

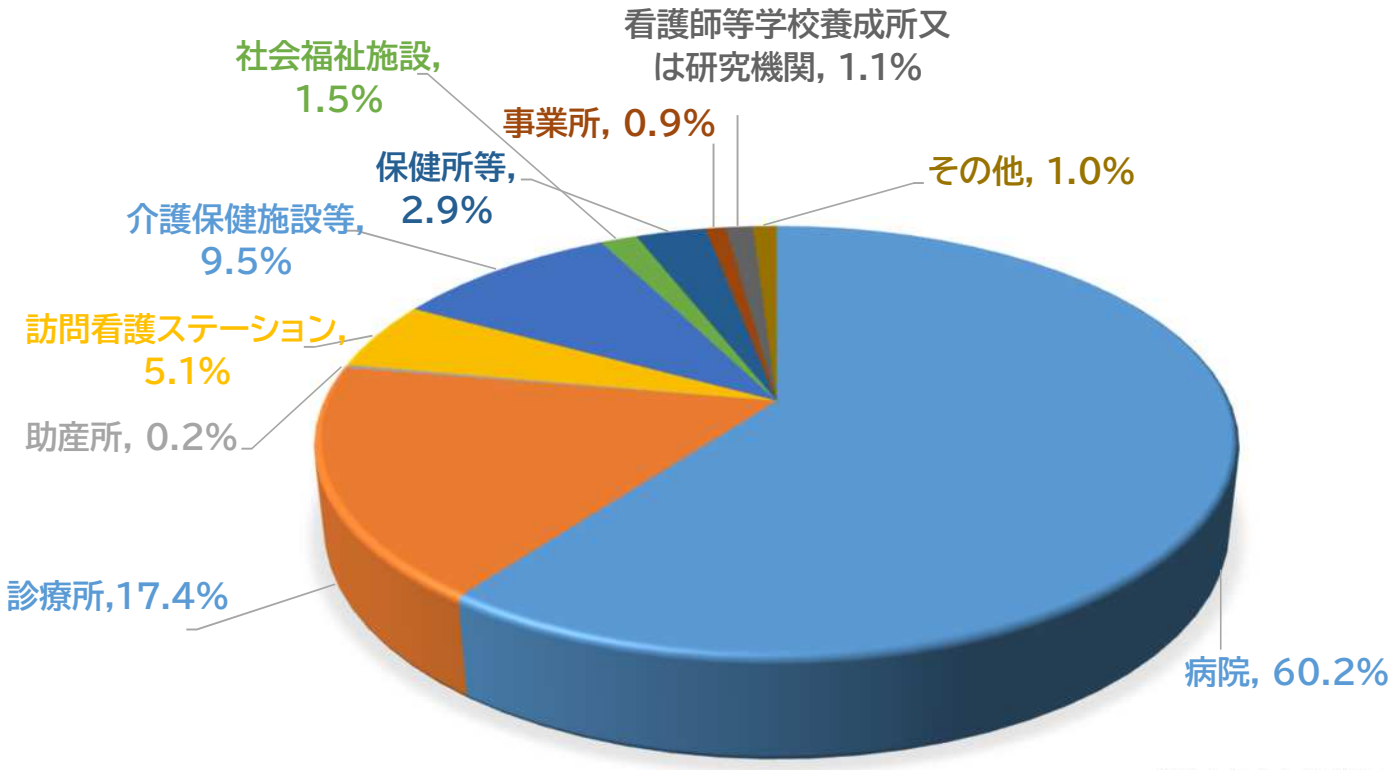
年齢階級別の就業者は保健師で30～49歳、助産師で25～49歳、看護師で25～29歳と40～49歳、准看護師で45～65歳以上が多くなっています。



（出典）厚生労働省「R4衛生行政報告例（就業医療関係者）」

2　就業状況について　②就業場所別就業人数割合

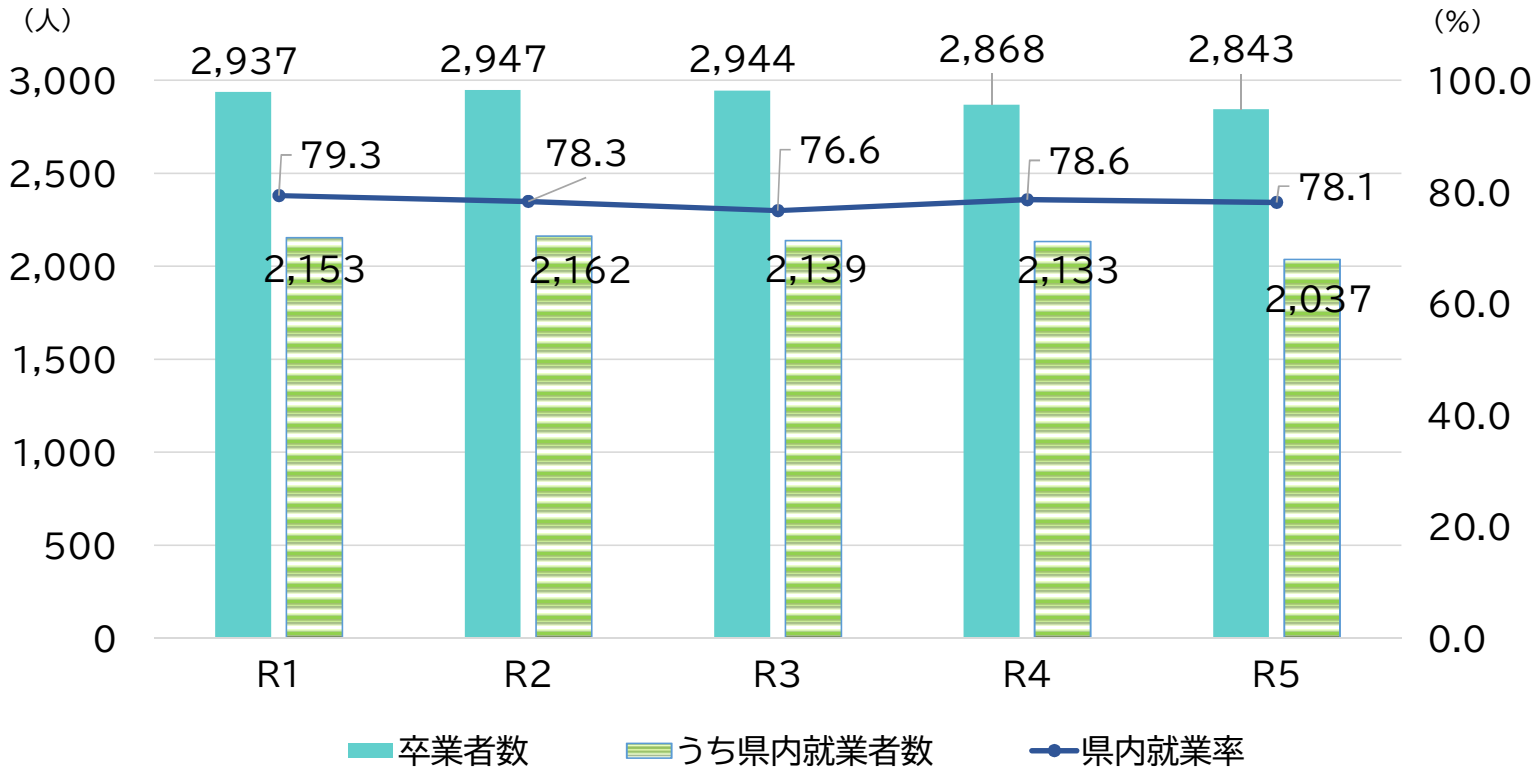
就業場所別の看護職員数を見ると病院が52,830人(60.2%)、診療所が15,311人(17.4%)介護保健施設等が8,324人(9.5%)となっています。



(出典)神奈川県「R4看護職員就業実態調査」

3　看護職員養成について ①看護師等学校養成所の卒業者数及び県内就業率

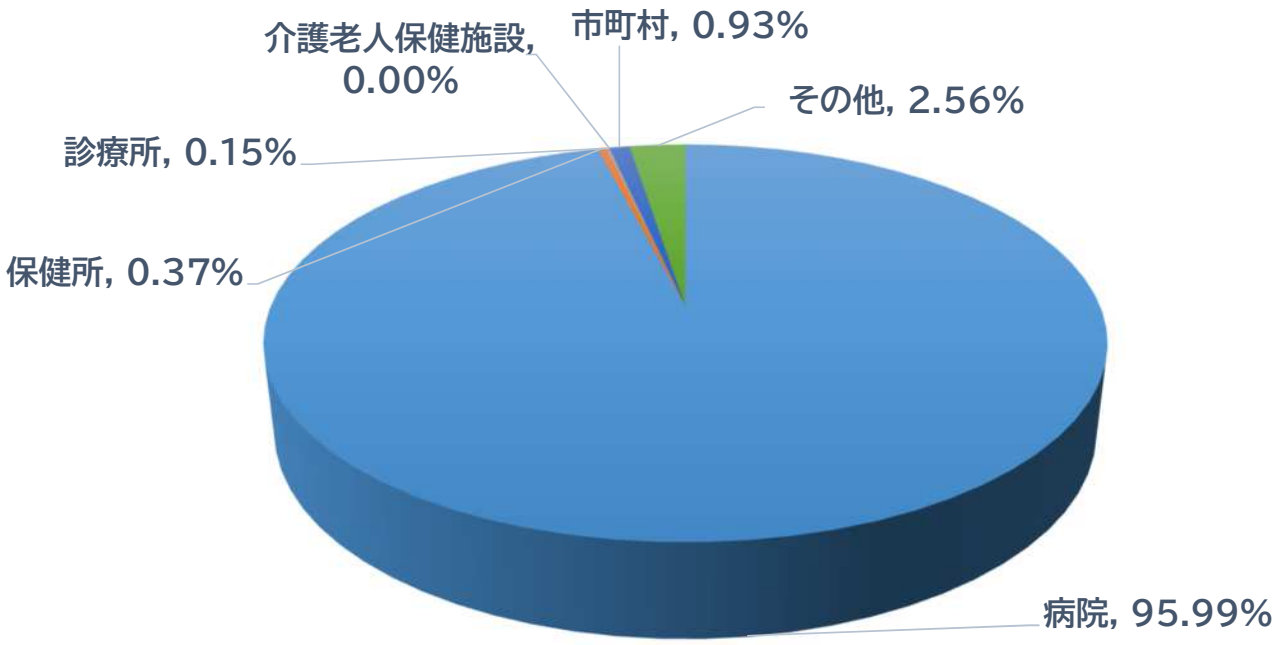
本県では年間2,800人前後の看護職員を養成しており、うち約2,000人が県内に就業しています。



（出典）「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

3　看護職員養成について　②令和5年度卒業生就業先

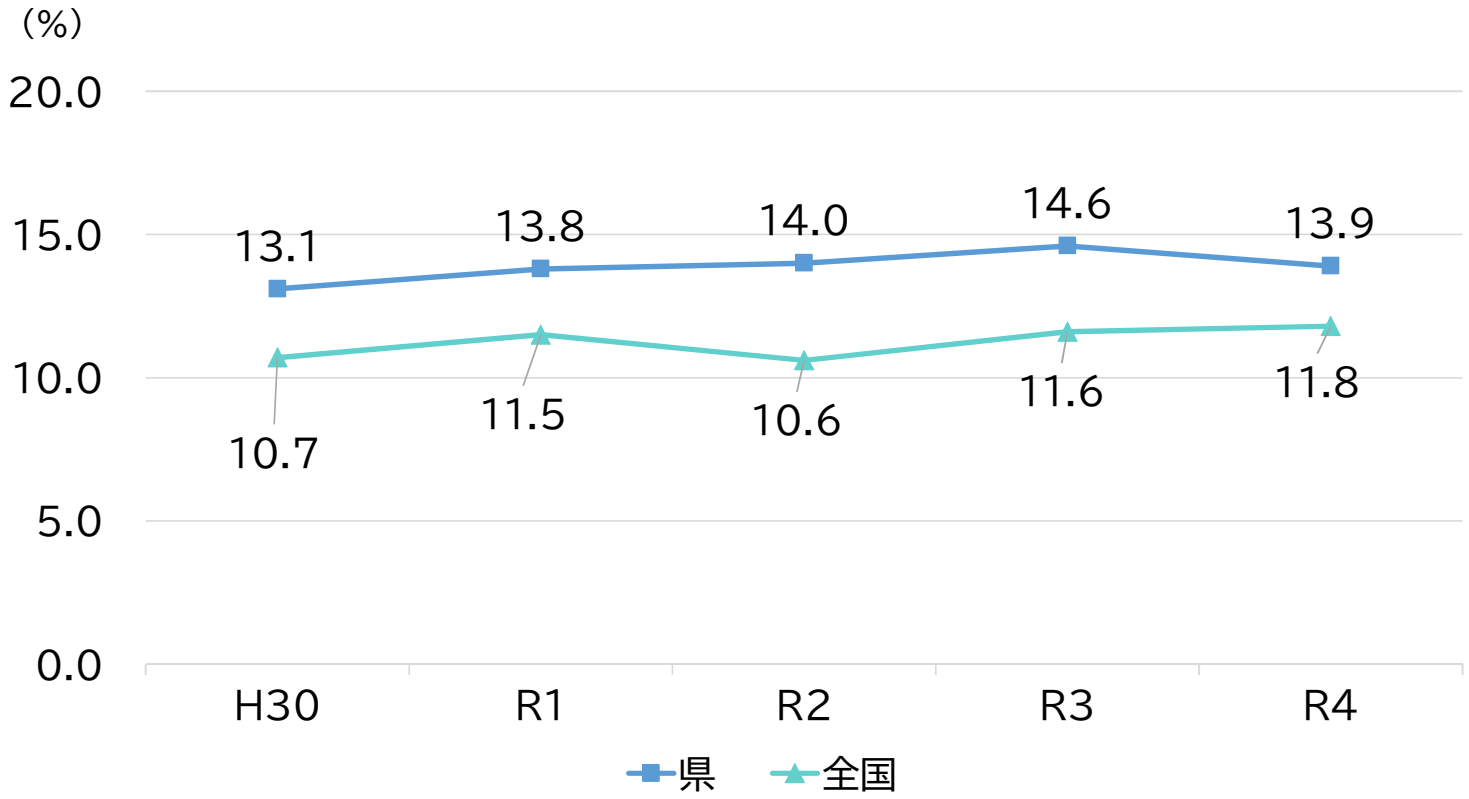
新卒看護職員の就業先は、病院が96%を占めています。



（出典）「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

3　看護職員の離職率について　③看護職員（常勤）の離職率の推移

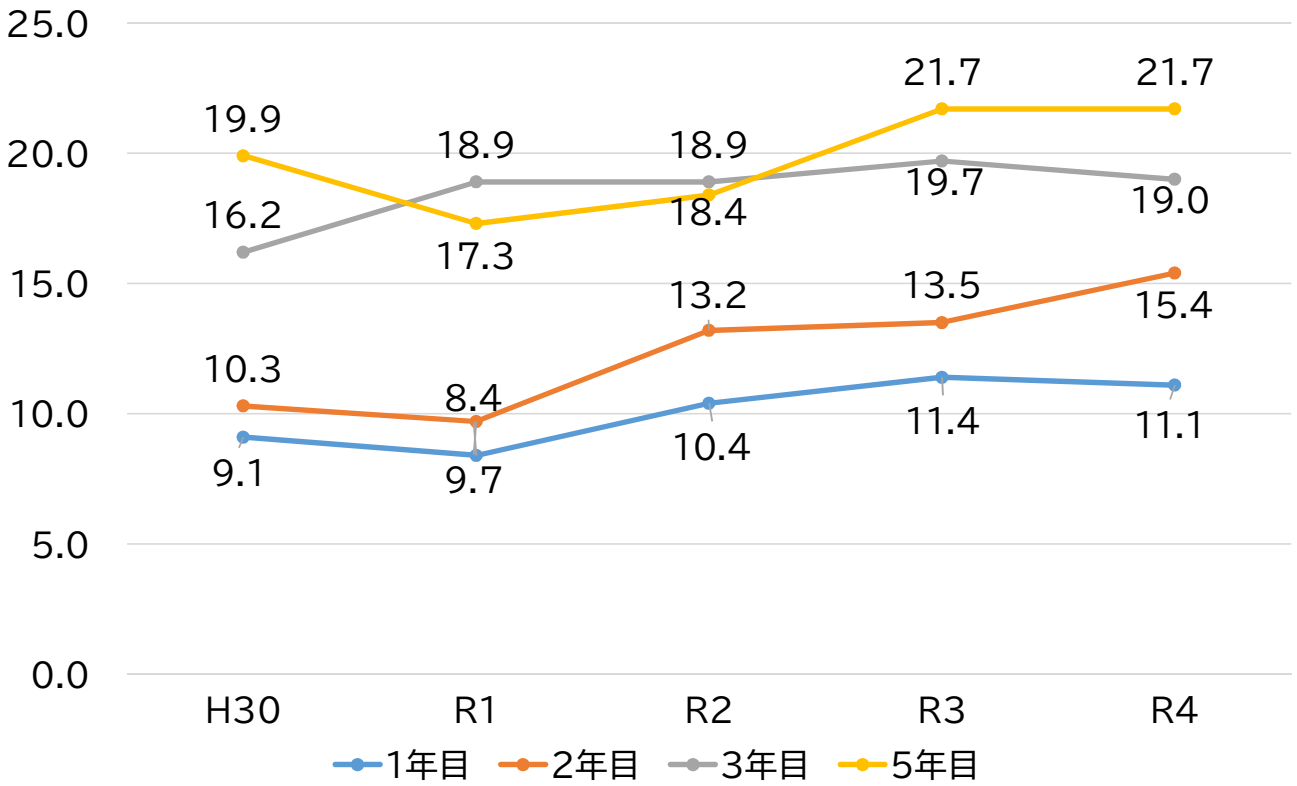
本県の看護職員（常勤）の離職率は、近年14%前後で推移しており、全国平均を上回っています。



（出典）公益社団法人日本看護協会「病院看護実態調査」

3 看護職員の離職率について ④1年目から5年目の看護職員の離職率の推移

1年目(新卒)から5年目までの経験年数別離職率は、3年目以降の離職率が特に高い傾向にあります。



Kanagawa Prefectural Government

(出典)神奈川県「看護職員就業実態調査(病院)」

3 看護職員の離職理由　⑤1年目から5年目の看護職員の離職理由

離職理由は、1年目（新卒）から3年目では「心身の不良」、4年目以降では、「心身の不良」に加え、「転居」や「結婚」等のライフステージの変化に伴う理由が主なものとなっています。

	経験年数					全体
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
1位	本人の心身の不良	本人の心身の不良	本人の心身の不良	転居	転居	本人の心身の不良
2位	勤務負担の重さ	家族の健康・介護	転居	本人の心身の不良	本人の心身の不良	転居
3位	看護職以外に転職	転居	結婚	結婚	結婚	家族の健康・介護
4位	家族の健康・介護	看護職以外に転職	看護職以外に転職	看護職以外に転職	看護職以外に転職	結婚
5位	職場の人間関係/転居	勤務負担の重さ	勤務負担の重さ	勤務負担の重さ	出産・育児	出産・育児

（出典）神奈川県「令和4年度看護職員就業実態調査（病院）」

【資料02】

賛同書

学校法人湘南ふれあい学園
湘 南 医 療 大 学
学長　大屋敷　芙志枝　殿

このたびの、湘南医療大学保健医療学部看護学科の入学定員増の申請にあたり、貴学の教育理念および地域医療への貢献の姿勢に深く賛同し、心より支持いたします。
現代の超高齢社会において、看護師の役割はますます重要性を増しており、医療・介護現場における人材不足は深刻な課題となっております。その中で、質の高い教育体制を整えた貴学において、さらなる人材育成が図られることは、地域社会の医療・福祉の充実に大きく寄与するものと確信しております。
つきましては、看護学科の定員増に対し、全面的に賛同することをここに表明いたします。

≪計画概要≫

名　称　　湘南医療大学

学部等　　保健医療学部看護学科
定員　140 名から 165 名に増員

時　期　　令和８年４月１日

令和７年　5　月　29　日

法人名　公益社団法人日本看護協会

代表者氏名　会長　高橋　弘枝　印

賛同書

学校法人湘南ふれあい学園
湘 南 医 療 大 学
学長　大屋敷　芙志枝　殿

このたびの、湘南医療大学保健医療学部看護学科の入学定員増の申請にあたり、貴学の教育理念および地域医療への貢献の姿勢に深く賛同し、心より支持いたします。
現代の超高齢社会において、看護師の役割はますます重要性を増しており、医療・介護現場における人材不足は深刻な課題となっております。その中で、質の高い教育体制を整えた貴学において、さらなる人材育成が図られることは、地域社会の医療・福祉の充実に大きく寄与するものと確信しております。
つきましては、看護学科の定員増に対し、全面的に賛同することをここに表明いたします。

≪計画概要≫

名　称　　湘南医療大学

学部等　　保健医療学部看護学科
定員　140名から165名に増員

時　期　　令和8年4月1日

令和7年 5 月 21 日

法人名　公益社団法人神奈川県看護協会

代表者氏名　会長　長野広敬　印

【資料03】

賛同書

学校法人湘南ふれあい学園
湘 南 医 療 大 学
学長　大屋敷　芙志枝　殿

このたびの、湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科（理学療法学専攻）の入学定員増の申請にあたり、貴学の教育理念および地域医療への貢献の姿勢に深く賛同し、心より支持いたします。

現代の超高齢社会において、理学療法士の役割はますます重要性を増しており、医療・介護現場における人材不足は深刻な課題となっております。その中で、質の高い教育体制を整えた貴学において、さらなる人材育成が図られることは、地域社会の医療・福祉の充実に大きく寄与するものと確信しております。

つきましては、リハビリテーション学科（理学療法学専攻）の定員増に対し、全面的に賛同することをここに表明いたします。

≪計画概要≫

名　称　　湘南医療大学

学部等　　保健医療学部ﾘﾊﾋﾞﾘﾃﾞｰｼｮﾝ学科(理学療法学専攻)
定員　40名から60名に増員

時　期　　令和8年4月1日

令和7年　5月　19日

法人名　公益社団法人 神奈川県理学療法士会

会長 内田 賢一 印

代表者氏名

【資料04】

学則　別表１

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
総合教育科目	人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	１後	1			○			必修15単位＋選択16単位以上、計31単位以上取得すること
		チーム医療論Ⅰ	１通	1			○			
		チーム医療論Ⅱ	４後	1				○		
		英語Ⅰ	１前	1			○			
		英語Ⅱ	１前	1				○		
		英語Ⅲ	２前		1		○			
		中国語	１前		1		○			
		韓国語	１前		1		○			
	人間と文化	文学	１前		1		○			
		教育学	１後	1			○			
		文化人類学	４前		1		○			
		国際保健医療論	２後		1		○			
		音楽論	１後		1		○			
	人間と健康	レクリエーションスポーツ	１通		2			○		
	人間と情報	情報リテラシー	１前	1				○		
		保健統計学の基礎	２前	2			○			
	人間と環境	法学（含日本国憲法）	１前	2			○			
		生物学	１前		2		○			
		物理学	１前		2		○			
		生化学	１後		1		○			
		環境論	１前		2		○			
		放射線概論	１後		1		○			
	人間の本質と尊厳	哲学	１後		1		○			
		生命倫理学	１後	1			○			
		社会学	１後		1		○			
		ジェンダー学	１後		1		○			
		人間の行動と心理	１前	2			○			
		ボランティア学	１後	1			○			
	小計（２８科目）		－	15	20	0	－			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門基礎科目	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復	人体の構造・機能Ⅰ	1前	2			○			必修22単位＋選択2単位以上、計24単位以上取得すること
		人体の構造・機能Ⅱ	1後	2			○			
		病態学Ⅰ	2前	2			○			
		病態学Ⅱ	2前	2			○			
		病態学Ⅲ	2後	1			○			
		病態学Ⅳ（精神）	2後	1			○			
		病態学Ⅴ（母子）	2通	1			○			
		微生物学	1前	1			○			
		病理学	1後	1			○			
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	現代医療論	1後	1			○			必修22単位＋選択2単位以上、計24単位以上取得すること
		薬と毒性学入門	1後	2			○			
		臨床心理学	2前	1			○			
		臨床栄養学	2前	1			○			
		関係法規	2前	1			○			
		社会福祉論	2後	1			○			
		公衆衛生学	2前	1			○			
		疫学Ⅰ	2後	1			○			
		疫学Ⅱ	2後		1		○			
		保健行政論	2前		1		○			
		保健医療情報学	2前		1		○			
	小計（２０科目）		－	22	3	0	－			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基盤科目	看護学概論	１前	1			○			必修46単位＋選択2単位取得すること
		ヘルスアセスメント学Ⅰ	１後	1			○	○		
		ヘルスアセスメント学Ⅱ	２後	2			○	○		
		ヘルスアセスメント学Ⅲ	３前	1			○	○		
		ナーシングスキル学Ⅰ	１後	3			○	○		
		ナーシングスキル学Ⅱ	２通	3			○	○		
		ナーシングプロセスⅠ	２前	1			○	○		
		ナーシングプロセスⅡ	３前	2			○	○		
		地域・在宅看護学	１後	1			○	○		
		生涯発達看護論	１後	1			○			
		看護倫理	３前	1			○	○		
		看護基礎ゼミ	１前	1				○		
	応用科目	臨床薬理看護学	２後	1			○			
		リハビリテーション看護論	３前	1			○			
		成人看護学	２前	1			○	○		
		成人看護方法論Ⅰ	２後	1			○	○		
		成人看護方法論Ⅱ	３前	1			○	○		
		老年看護学	２前	1			○	○		
		老年看護方法論	２後	1			○	○		
		小児看護学	２後	1			○	○		
		小児看護方法論	３前	1			○	○		
		母性看護学	２後	1			○	○		
		母性看護方法論	３前	1			○	○		
		精神看護学	２後	1			○	○		
		精神看護方法論	３前	1			○	○		
		在宅看護方法論	３前	1			○	○		
		地域看護方法論	２後	1			○	○		
	発展科目	災害看護学	３前	2			○			必修46単位＋選択2単位取得すること
		国際看護学	４前	2			○			
		看護管理学	３前	2			○			
		看護研究	３前	2			○	○		
		プロフェッショナル論Ⅰ	２後	1			○	○		
		プロフェッショナル論Ⅱ	３前	1			○	○		
		プロフェッショナル論Ⅲ	４後	1			○	○		
		保健医療看護の最前線	４前		2		○			
		看護応用ゼミ	４通	2				○		
	小計（３６科目）			46	2	0	－			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	卒業要件
専門科目	臨地実習	看護基盤実習Ⅰ	１前	2					○	必修23単位取得すること
		看護基盤実習Ⅱ	２後	4					○	
		ヘルスプロモーション実習	３後	4					○	
		急性期看護実習	３後	4					○	
		慢性期看護実習	３後	6					○	
		統合実習	４前	3					○	
	小計（６科目）		－	23	0	0	－			
合計（９０科目）			－	106	25	0	－			

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、必修１０６単位、総合教育科目の選択科目から１６単位、専門基礎科目の選択科目から２単位、専門科目の選択科目から２単位以上を取得し、１２６単位以上取得していること。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
総合教育科目	人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	１前	1			○			必修 11単位 ＋ 選択16単位 以上、 計27単位 以上 取得すること
		チーム医療論	４後	1				○		
		英語Ⅰ	１前	1				○		
		英語Ⅱ	２前	1				○		
		英語Ⅲ	２後		1			○		
		中国語	１前		1			○		
		韓国語	１後		1			○		
	人間と文化	文学	１前		1		○			
		教育学	１後		1		○			
		文化人類学	１前		1		○			
		国際関係論	１前		1		○			
		国際保健医療論	１後		1		○			
		音楽論	１後		1			○		
	人間と健康	社会福祉論	２後	1			○			
		障害者スポーツ	１前・後		1			○		
		レクリエーションスポーツ	１前・後		1			○		
	人間と情報	情報リテラシー	１前		1			○		
		研究法入門	１後	2			○			
	人間と環境	公衆衛生学	２前	1			○			
		保健行政論	２前	1			○			
		法学（含日本国憲法）	１前		2		○			
		生物学	１前		2		○			
		物理学	１前		2		○			
		生化学	１後		1		○			
		環境論	１前		1		○			
		放射線概論	１後		1		○			
	人間の本質と尊厳	哲学	１後		1		○			
		倫理学	１前		1		○			
		社会学	１後		2		○			
		心理学	１前	2			○			
		発達心理学	１後		1		○			
		ボランティア学	１後		1		○			
		生命倫理学	１後		1		○			
	小計（３３科目）		－	11	28	0	－			

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門基礎科目	人体の構造と機能および心身の発達	解剖学Ⅰ（骨・筋）	1前	1			○			必修34単位取得すること
		解剖学Ⅱ（神経）	1前	1			○			
		解剖学Ⅲ（内臓器）	1後	1			○			
		解剖学実習	2通	2					○	
		生理学Ⅰ	1前	1			○			
		生理学Ⅱ	1後	1			○			
		生理学演習	2前	2				○		
		基礎運動学	1後	1			○			
		運動機能学	2前	1			○			
		運動学演習	2後	1				○		
		人間発達学	1後	1			○			
		運動生理学	1後	1			○			
	小計（１２科目）		－	14	0	0	－			
	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	リハビリテーション栄養学	2前	1			○			
		臨床薬理学	2後	1			○			
		臨床心理学	2前	1			○			
		病理学	2前	1			○			
		内科学Ⅰ	2前	1			○			
		内科学Ⅱ	2後	1			○			
		整形外科学Ⅰ	2前	1			○			
		整形外科学Ⅱ	2後	1			○			
		精神医学Ⅰ	2前	1			○			
		神経内科学	2後	1			○			
		小児科学	2前	1			○			
		脳神経外科学	2後	1			○			
		リハビリテーション医学	1後	1			○			
		一般臨床医学	2後	1			○			
		老年医学概論	3前	1			○			
		救命救急学概論	3後	1			○			
	小計（１６科目）		－	16	0	0	－			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1前	2			○			
		医療制度と関連法規	1後	1			○			
		終末期医療論	3前	1			○			
	小計（３科目）		－	4	0	0	－			

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法教養基礎	1前	2				○		必修 63単位 + 選択3単位 以上（専門共通2単位以上、地域理学療法学1単位以上）、 計66単位 以上 取得すること
		理学療法概論	1前	1			○			
		理学療法概論演習	1後	1				○		
		臨床運動学	2後	1			○			
		統計学	1後	1			○			
		理学療法学研究法	3前	1			○			
		理学療法研究法演習	3後	1				○		
		理学療法卒業研究	4通	4				○		
	小計（8科目）		－	12	0	0	－			
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	3前	1			○			
		理学療法管理学Ⅱ	3後	1			○			
	小計（2科目）		－	2	0	0	－			
	理学療法評価学	検査測定学概論	1後	1			○			
		検査測定学演習	2前	1				○		
		運動器系検査測定学	2後	1				○		
		神経系検査測定学	2前	1				○		
		動作解析学	3前	1				○		
		クリニカルリーズニング論	3後	1			○			
	小計（6科目）		－	6	0	0	－			
	理学療法治療学	運動療法学概論	1後	1			○			
		運動療法学基礎演習	2前	1				○		
		運動器系理学療法学	3前	1			○			
		運動器系理学療法学演習	3後	1				○		
		神経系理学療法学	3前	1			○			
		神経系理学療法学演習	3後	1				○		
		発達系理学療法学	3前	1			○			
		老年期理学療法学	3前	1			○			
		呼吸・循環系理学療法学	3前	1			○			
		呼吸・循環系理学療法学演習	3後	1				○		
		代謝系理学療法学	3前	1			○			
		物理療法学	2後	1			○			
		物理療法学演習	3前	1				○		
		日常生活活動学	2後	1			○			
		日常生活活動学演習	3前	1				○		
		義肢装具学Ⅰ	2後	1			○			
		義肢装具学Ⅱ	3前	1				○		
		理学療法対象者行動論	3前	1			○			
		高次脳障害学	3前	1			○			
		理学療法特論Ⅰ	3後	1			○			
		理学療法特論Ⅱ	4後	1			○			
	小計（２１科目）		－	21	0	0	－			

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	卒業要件
専門科目	専門共通	司法精神科作業療法	３後		1		○			必修63単位＋選択3単位以上（専門共通2単位以上、地域理学療法学1単位以上）、計66単位以上取得すること
		生活支援機器論	３前		1		○			
		地域高齢者支援論	３前		1		○			
		徒手療法	３後		1		○			
		ウーマンズヘルスケア	３後		1		○			
		スポーツ理学療法学	３後		1		○			
		小計（６科目）	－	0	6	0	－			
	地域理学療法学	地域理学療法学	２前	1			○			
		地域理学療法学演習	２後	1				○		
		バリアフリー	３前		1		○			
		リハビリテーション工学	３後		1		○			
		小計（４科目）	－	2	2	0	－			
	臨床実習	見学実習（理学療法）	１前	1					○	
		評価学実習	３後	4					○	
		地域リハビリテーション実習（理学療法）	３後	1					○	
		総合臨床実習Ⅰ（理学療法）	４前	7					○	
		総合臨床実習Ⅱ（理学療法）	４前	7					○	
		小計（５科目）	－	20	0	0	－			
自由科目	—	障がい者スポーツ概論　※	２前			1	○			自由科目のため、卒業必要単位数に参入しない。
		小計（１科目）		0	0	1	－			
合計（１１７科目）			－	108	36	1	－			－

学位又は称号	学士（理学療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、必修科目１０８単位、選択科目１９単位以上、合計１２７単位以上を修得していること。選択科目の内訳は、総合教育科目から１６単位以上、専門科目の専門共通から２単位以上、専門科目の地域理学療法学から１単位以上とする。 ただし、※印の科目については自由科目であり、卒業必要単位数には含まれない。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

教育課程等の概要

（薬学部　医療薬学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
総合教育科目	人間とコミュニケーション	総合英語ⅠA	1前	1				○		必修15単位＋選択6単位以上 計21単位以上 取得すること
		総合英語ⅠB	1後	1				○		
		総合英語ⅡA	2前	1				○		
		総合英語ⅡB	2後	1				○		
		総合英語Ⅲ	5前・後・6前	1				○		
		英会話A	3前	1				○		
		英会話B	3後	1				○		
		英語Ⅰ（基礎英語）	1前		1			○		
		英語Ⅱ（医療英語）	2前		1			○		
		英語Ⅲ（コミュニケーション）	2後		1			○		
		中国語	1前		1			○		
		韓国語	1後		1			○		
		コミュニケーション論	1前	1			○			
		チーム医療論	6後	1				○		
	人間と文化	文学	1・2・3前		1		○			
		教育学	1・2・3後		1		○			
		文化人類学	1・2・3前		1		○			
		国際関係論	1・2・3前		1		○			
		国際保健医療論	1・2・3後		1		○			
		音楽論	1・2・3後		1		○			
	人間と健康	栄養学	1前		2		○			
		薬と毒性学入門	1後		1		○			
		障害者スポーツ	1前・後		1			○		
		レクリエーションスポーツ	1前・後		1			○		
		症候論	1後	2			○			
		社会福祉論	2後	1			○			
	人間と情報	情報リテラシー	1前		1			○		
		研究法入門	1後	2			○			
	人間と環境	環境論	1前		1		○			
		法学（含日本国憲法）	1前		2		○			
		放射線概論	1後		1		○			
		保健行政論	2前		1		○			
		公衆衛生学	2前		1		○			
	人間の本質と尊厳	倫理学	1前		1		○			
		心理学	1前		2		○			
		哲学	1後		1		○			
		社会学	1後		2		○			
		発達心理学	1後		1		○			
		ボランティア学	1後		1		○			
		生命倫理学	1後		1		○			
		ジェンダー論	1後	1			○			
		小計（41科目）	－	15	32	0	－			

教育課程等の概要

（薬学部　医療薬学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
基礎科目	専門基礎	科学計算演習	1前	1				○		必修2単位取得すること
		科学英語	4前	1				○		
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			
専門科目	基本事項・薬学と社会	薬学入門Ⅰ（薬剤師の使命）	1前	1			○			
		薬学入門Ⅱ（薬と病気の科学）	1前	1			○			
		早期臨床体験実習	1前	1					○	
		生命・医療倫理学	1前	2			○			
		臨床心理学	1後	1			○			
		薬事関係法規・薬事制度	4前	1			○			
		薬剤経済学	4後	1			○			
		後期臨床体験実習	5通	1					○	
		日本薬局方	4後	1			○			
		小計（9科目）	－	10	0	0	－			
	薬学基礎	化学系基礎科学	1前	2			○			（専門科目） 必修169単位 ＋ 選択3単位以上 計172単位以上 取得すること
		化学系実習	1後	1					○	
		物理系基礎科学	1前	2			○			
		物理化学Ⅰ	1後	2			○			
		分析化学Ⅰ	1後	2			○			
		生物系基礎科学	1前	2			○			
		生物系実習	1後	1					○	
		生化学Ⅰ	1後	2			○			
		解剖学	1後	2			○			
		物理化学Ⅱ	2前	2			○			
		分析化学Ⅱ	2前	2			○			
		分析化学実習	2前	1					○	
		有機化学Ⅰ	2前	2			○			
		生化学Ⅱ	2前	2			○			
		生化学実習	2前	1					○	
		生理学	2前	2			○			
		微生物学Ⅰ	2前	2			○			
		物理化学Ⅲ	2後	2			○			
		物理化学実習	2後	1					○	
		有機化学Ⅱ	2後	2			○			
		有機化学実習	2後	1					○	
		天然薬物学	2後	2			○			
		生化学Ⅲ	2後	2			○			
		生理解剖学実習	2後	1					○	
		微生物学Ⅱ	2後	2			○			
		免疫学Ⅰ	2後	2			○			
		分析化学Ⅲ	3前	1			○			
		分析化学Ⅳ	3前	1			○			
		有機化学Ⅲ	3前	2			○			
		天然薬物学実習	3前	1					○	
		微生物学実習	3前	1					○	
		免疫学Ⅱ	3前	1			○			
		生化学Ⅳ	3後	1			○			
		アドバンスド生物化学	3・6前		1		○			
		香粧品科学	4・6前		1		○			
		腫瘍生物学	4・6後		1		○			
		感染制御学	6前		1		○			
		小計（37科目）	－	53	4	0	－			
		放射化学	2後	2			○			

教育課程等の概要

（薬学部　医療薬学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			卒業要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	衛生薬学	機能食品学	2・6後		1		○			（専門科目） 必修169単位 ＋ 選択3単位以上 計172単位以上 取得すること
		衛生化学Ⅰ	3前	2			○			
		医療統計学	3前	1			○			
		衛生化学Ⅱ	3後	2			○			
		衛生化学実習	3後	1					○	
		衛生化学Ⅲ	4前	2			○			
		小計（7科目）	－	10	1	0	－			
	医療薬学	薬理学Ⅰ	2後	2			○			
		薬理学Ⅱ	3前	2			○			
		薬物治療学Ⅰ	3前	2			○			
		薬理学実習	3前	1					○	
		薬物動態学Ⅰ	3前	2			○			
		薬剤学Ⅰ	3前	2			○			
		薬物治療学Ⅱ	3後	2			○			
		薬物動態学Ⅱ	3後	2			○			
		薬剤学Ⅱ	3後	2			○			
		病理学概論	4前	2			○			
		症候・診断学	4前	2			○			
		処方解析演習	4前	1				○		
		薬物治療学Ⅲ	4前	2			○			
		医薬品開発学	4前	2			○			
		医療安全管理	4前	1			○			
		創薬化学	4・6前		1		○			
		医薬品情報学	4後	2			○			
		薬物治療学Ⅳ	4後	2			○			
		薬物治療学Ⅴ	4後	2			○			
		漢方治療学	6前	2			○			
		レギュラトリーサイエンス	6前	2			○			
		薬物治療学Ⅵ	6後	2			○			
		小計（22科目）	－	39	1	0	－			
	薬学臨床	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1				○		
		調剤学	3後	2			○			
		実務実習事前学習Ⅰ	3後	1					○	
		看護論	3後	1			○			
		総合リハビリテーション論	3後	1			○			
		実務実習事前学習Ⅱ	4前	2					○	
		医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1				○		
		臨床栄養学	4前		1		○			
		実務実習事前学習Ⅲ	4後	2					○	
		コミュニティーファーマシー	4後	1			○			
		ファーマシーマネジメント論	4・6前		1		○			
		薬局実務実習	5通	10					○	
		病院実務実習	5通	10					○	
		地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1			○			
		セルフメディケーション	6前	1			○			
		老年学	6前	1			○			
		小計（16科目）	－	35	2	0	－			
		薬学総合プレ研究	3通～4前	2					○	（専門科目）

教育課程等の概要

（薬学部　医療薬学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	卒業要件
専門科目	薬学研究	卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）	4後～5通	12					○	（専門科目） 必修169単位 ＋ 選択3単位 以上 計172単位 以上 取得する こと
		卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）	6前	4					○	
		総合演習Ⅰ	6前	2				○		
		総合演習Ⅱ	6後	2				○		
		インターンシップ実習（課題解決型薬学研究・展開）	4・5・6通			1			○	
		小計（6科目）	－	22	0	1	－			－
合計（140科目）			－	186	40	1	－			－

学位又は称号	学士（薬学）	学位又は学科の分野	薬学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上（必修科目15単位及び選択科目6単位以上）、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上（必修科目169単位、選択科目3単位以上）を履修し、合計195単位以上を取得していること。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

【資料05】看護学科実習施設配置

令和7年度　湘南医療大学　実習配置計画　（病院）

			5月				6月				7月					8月				9月					10月				11月				12月				令和8年1月				2月			
月曜			5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23
火曜			6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24
水曜			7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25
木曜			8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26
金曜			9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27
週			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
湘南東部	整形・口外	2A				基盤Ⅰ7名																急性期5名		急性期5名		急性期5名				急性期5名		急性期5名		急性期5名								基盤Ⅱ6名			
	外科	2B										統合（3～5名）×2クール										急性期5名		急性期5名		急性期5名				急性期5名		急性期5名		急性期5名								基盤Ⅱ7名			
	腎内・脳外	3A																																								基盤Ⅱ6名			
						基盤Ⅰ7名																																							
	循環器・呼吸器・血液	3B																																								基盤Ⅱ6名			
																					慢性期5名				慢性期5名				慢性期5名				慢性期5名										
	精神	精神																			慢性期5名／5名／5名				慢性期7名／6名／7名				慢性期5名／5名／5名				慢性期7名／6名／7名										
	緩和	緩和										統合（3～5名）×2クール																															
	NASVA	NASVA										統合（3～5名）×2クール																															
	東館	東館																																							基盤Ⅱ6名			
																					慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	透析センター											統合（3～5名）×2クール									慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
	外来											統合（3～5名）×2クール									慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
	小児外来											統合（3～5名）×2クール																															
	手術室											統合（3～5名）×2クール																															
	看護部											統合（3～5名）×2クール																															
	感染制御室											統合（3～5名）×2クール																															
	地域連携部門											統合（3～5名）×2クール									慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
	健診											統合（3～5名）×2クール								ヘルスプロモーション20名			ヘルスプロモーション20名				ヘルスプロモーション20名				ヘルスプロモーション10名											
湘南東部クリニック	メディカルフィットネス ふれあい											統合（3～5名）×2クール								ヘルスプロモーション20名			ヘルスプロモーション20名				ヘルスプロモーション20名				ヘルスプロモーション10名											
中央	居宅支援事業所	居宅																				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名										
	内科・外科・整形脳神経・乳腺耳鼻・眼科	4階南				基盤Ⅰ7名							統合（3～5名）×1クール									急性期5名				急性期5名				急性期5名				急性期5名								基盤Ⅱ6名			
	シャント造設・循内・耳鼻・眼・整形	5階南				基盤Ⅰ7名																急性期5名				急性期5名				急性期5名				急性期5名								基盤Ⅱ6名			
	障害一般病棟	2階西																			慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	療養病棟	4階西																			慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	回復期リハビリテーション病棟	5階西										統合（3～5名）×2クール																															
	透析センター											統合（3～5名）×2クール									慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
	外来											統合（3～5名）×2クール									慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
	ICU											統合（3～5名）×2クール																															
	手術室											統合（3～5名）×2クール																															
	感染制御室											統合（3～5名）×2クール																															
	地域連携部門																				慢性期10名		慢性期10名						慢性期10名		慢性期10名											
湘南健康管理センター												統合（3～5名）×2クール													ヘルスプロモーション10名			ヘルスプロモーション20名																
東戸塚	一般障害・透析	3階										統合（3～5名）×2クール																															
	一般障害	4階										統合（3～5名）×2クール																															
	回復期リハ	5階										統合（3～5名）×2クール																															
	看護部など	看護部など										統合（3～5名）×2クール																															
	在宅	在宅										統合（3名）×2クール									慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名										
	居宅支援事業所	居宅										統合（3名）×2クール																															
横浜	周手術期	3階				基盤Ⅰ7名																																					基盤Ⅱ6名			
	一般・透析・回復期リハ	7階				基盤Ⅰ7名																																					基盤Ⅱ6名			
	母性	8階										統合（5～6名）×2クール								ヘルスプロモーション ウィメンズヘルス																									
	外来	外来																		ヘルスプロモーション（母性） ウィメンズヘルス																									
	人工透析室											統合（3～5名）×2クール																															
	健康管理センター																			ヘルスプロモーション20名										公衆Ⅱ仮 4名×2		ヘルスプロモーション20名											
鎌倉	一般病棟	2A				基盤Ⅰ7名																																					基盤Ⅱ6名			
	障害者病棟	2B																																								基盤Ⅱ6名			
	回復期病棟	3階				基盤Ⅰ7名						統合（3～5名）×2クール									慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名										基盤Ⅱ6名			
	外来																				慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	人工透析室																				慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	地域連携部門																				慢性期5名		慢性期5名						慢性期5名		慢性期5名											
	在宅	在宅																			慢性期3名								慢性期3名													
	居宅支援事業所	居宅																				慢性期3名									慢性期3名											
鶴見	回復期リハ	3階A				基盤Ⅰ7名																																					基盤Ⅱ6名			
		3階B				基盤Ⅰ7名																																					基盤Ⅱ6名			
	一般障害	4階																																									基盤Ⅱ6名			
	在宅	在宅										統合（3名）×2クール									慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名										
	居宅支援事業所	居宅																				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名										

令和7年度　湘南医療大学　実習配置計画　（病院）

			5月				6月				7月					8月				9月					10月				11月				12月				令和8年1月				2月			
月曜			5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23
火曜			6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24
水曜			7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25
木曜			8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26
金曜			9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27
週			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
平塚	療養	4階																																							基盤Ⅱ6名			
	回復期リハ	3階				基盤Ⅰ7名																																			基盤Ⅱ6名			
	障害一般	2階				基盤Ⅰ7名																																			基盤Ⅱ6名			
	外来	在宅																			慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名											
汐見台	母性	2東										統合（5～6名）×2クール																	ヘルスプロモーション ウィメンズヘルス														
	内科	成人（3東）				基盤Ⅰ7名															慢性期5名			慢性期5名					慢性期5名			慢性期5名									基盤Ⅱ6名			
	回復期リハ	成人（4F南）				基盤Ⅰ7名						統合（3～5名）×2クール									慢性期5名			慢性期5名					慢性期5名			慢性期5名									基盤Ⅱ6名			
	周手術期	成人（5東）				基盤Ⅰ7名						統合（3～5名）×2クール																													基盤Ⅱ6名			
	透析室																				慢性期10名			慢性期10名					慢性期10名			慢性期10名											
	外来											統合（3～5名）×2クール																																		
																					慢性期10名			慢性期10名					慢性期10名			慢性期10名											
																					ヘルスプロモーション（小児 9/1 ～12/19 、母性10/28～12/18 ）																								
	地域連携部門																				慢性期10名			慢性期10名					慢性期10名			慢性期10名											
	看護部など											統合（3～5名）×2クール																																		
	在宅	在宅										統合（3～5名）×2クール									慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名											
	居宅支援事業所	居宅										統合（3名）×2クール										慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名										
大和成和	周術期	3階										統合（3～5名）×2クール										急性期5名			急性期5名					急性期5名			急性期5名									基盤Ⅱ6名			
	周手術期/ICU	2階										統合（3～5名）×2クール										急性期5名			急性期5名					急性期5名			急性期5名									基盤Ⅱ6名			
	OPE室/救急	OPE室/救急										統合（3～5名）×2クール																																		
さがみ野中央	内科・外科	3・4階										統合（3～5名）×2クール																																	基盤Ⅱ6名			
成和訪問看護ステーション	在宅											統合（3名）×2クール									慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名											
訪問看護茅ヶ崎ふれあいステーション	在宅											統合（3名）×2クール									慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名											
あやせ訪問看護ステーション	在宅	在宅										統合（3名）×2クール									慢性期3名			慢性期3名					慢性期3名			慢性期3名											
THP		精神																			慢性期5名／5名／5名			慢性期7名／6名／7名					慢性期5名／5名／5名			慢性期6名／6名／7名											

令和7年度　湘南医療大学　実習配置計画　（施設）

		4月					5月				6月				7月					8月				9月					10月				11月				12月		
月曜		31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15
火曜		1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16
水曜		2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17
木曜		3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18
金曜		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19
週		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
ふれあいの百合	老健									基盤Ⅰ7名																														
ふれあいの丘	老健									基盤Ⅰ7名																														
シルバーガーデン	老健									基盤Ⅰ7名																										ヘルスプロモーション　20名			
ふれあいの泉	特養									基盤Ⅰ7名																								ヘルスプロモーション　20名				
ふれあいの町田	老健									基盤Ⅰ7名																													
ふれあいの桜	老健									基盤Ⅰ7名														ヘルスプロモーション　20名								ヘルスプロモーション　20名			ヘルスプロモーション　20名			
ふれあいの森	特養									基盤Ⅰ7名														ヘルスプロモーション　20名								ヘルスプロモーション　20名			ヘルスプロモーション　10名			
ふれあいの渚	老健									基盤Ⅰ7名																	ヘルスプロモーション　20名											
ヒルズ東戸塚	老健									基盤Ⅰ7名																													
	居宅															統合（3名）×2クール										慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名			慢性期3名	
ナーシングプラザ成和	老健									基盤Ⅰ7名																													
	居宅																									慢性期3名				慢性期3名				慢性期3名			慢性期3名	
ふれあいの園　平塚																統合老年3名×2																							
シニアホテル東戸塚イーストウイング																統合老年3名×2																							
地域包括	ゆず															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
地域包括	わかば															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
地域包括	みどり															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
地域包括	さくら															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
地域包括	すみれ															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
地域包括	ふれあいの泉															統合（3名）×2クール										慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
居宅	元町ケアセンター																									慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
居宅	ふれあいの森																									慢性期2名				慢性期2名				慢性期2名			慢性期2名	
みどり幼稚園																																							
学校・企業・東戸塚住民組織											東戸塚住民組織　週1回　（統合）																													

【資料06】リハビリテーション学科理学療法学専攻実習施設配置

2025年度 湘南医療大学 理学療法学専攻		4年総合臨床実習Ⅰ　30日 4/7～5/21　39名		4年総合臨床実習Ⅱ　32日 6/9～7/23　39名		1年見学3日間46名	←9/8-9/10		3年評価実習 19日 1/13～2/6 42名		地域3年 3日間 42名	←2/16-2/18 21名 ←2/24-2/26 21名

実習施設名		実習指導者研修修了者数	4月				5月					6月				7月				8月					9月				10月				11月					12月				2026.1月					2026.2月				2026.3月				
			～5	7～12	14～19	21～26	28～3	5～10	12～17	19～24	26～31	2～7	9～14	16～21	23～28	30～5	7～12	14～19	21～26	28～2	4～9	11～16	18～23	25～30	1～6	8～13	15～20	22～27	29～4	6～11	13～18	20～25	27～1	3～8	10～15	17～22	24～29	1～6	8～13	15～20	22～27	29～3	5～10	12～17	19～24	26～31	2～7	9～14	16～21	23～28	2～7	9～14	16～21	23～28	30～
病院	湘南東部総合病院			6	6	6	6	6	6	6			6	6	6	6	6	6	6							4																4	4	4	4									
	茅ヶ崎中央病院			4	4	4	4	4	4	4			5	5	5	5	5	5	5							4																4	4	4	4									
	ふれあい平塚ホスピタル			4	4	4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	4	4							4																4	4	4	4									
	ふれあい東戸塚ホスピタル			4	4	4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	4	4							3																4	4	4	4									
	ふれあい鶴見ホスピタル			4	4	4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	4	4							4																3	3	3	3									
	ふれあい町田ホスピタル			3	3	3	3	3	3	3			3	3	3	3	3	3	3							2																2	2	2	2									
	ふれあい横浜ホスピタル			3	3	3	3	3	3	3			2	2	2	2	2	2	2							3																2	2	2	2									
	康心会汐見台病院			4	4	4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	4	4							3																3	3	3	3									
	ふれあい鎌倉ホスピタル			3	3	3	3	3	3	3			3	3	3	3	3	3	3							3																2	2	2	2									
	さがみ野中央病院												2	2	2	2	2	2	2							2																2	2	2	2									
	大和成和病院																																																				
	綾瀬厚生病院			2	2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2	2	2							2																2	2	2	2									
	伊豆東部総合病院			2	2	2	2	2	2	2																																											
老健	ふれあいの丘																									2																2	2	2	2		4	4						
	湘南シルバーガーデン																									2																2	2	2	2		3	3						
	ふれあいの渚																																															2	2					
	ヒルズ東戸塚																									2																2	2	2	2		3	3						
	ふれあいの桜																									2																2	2	2	2		2	2						
	ふれあいの町田																																															2	2					
	成和ナーシングプラザ																									2																						2	2					
	ふれあいの百合																									2																2	2	2	2		3	3						
精神	湘南さくら病院																																																			
	ふれあい沼津ホスピタル																																																			
	ふれあい南伊豆ホスピタル																																																			
	THPメディカルクリニック																																																			
			0	39	39	39	39	39	39	39	0	0	39	39	39	39	39	39	39	0	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	42	42	42	0	21	21	0	0	0	0	0

802

【資料07】

2024年度　図書館資料 蔵書一覧

総資料数 （2025年3月31日時点）

区分	保健			薬学			山手			藤沢			合計		
	和	洋	合計	和	洋	合計	和	洋	合計	和	洋	合計	和	洋	合計
図書	14,921冊	811冊	15,732冊	3,721冊	312冊	4,033冊	5,446冊	201冊	5,647冊	716冊	1冊	717冊	24,804冊	1,325冊	26,129冊
雑誌 ※1	216種	36種	252種	53種	3種	56種	140種	16種	156種	0種	0種	0種	409冊	55冊	464種
視聴覚	600点	2点	602点	28点	0点	28点	185点	0点	185点	0点	0点	0点	813冊	2冊	815点
製本雑誌	41冊	0冊	41冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	41冊	0冊	41冊
電子書籍	47冊	0冊	47冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	0冊	47冊	0冊	47冊
電子ジャーナル ※2	2種	870種	872種	0種	870種	870種	2種	864種	866種	0種	0種	0種	4冊	2,604冊	2,608種
データベース ※3	6種	18種	24種	4種	19種	23種	6種	16種	22種	0種	0種	0種	16冊	53冊	69種
新聞 ※4	4誌	0誌	4誌	1誌	0誌	1誌	0誌	0誌	0誌	0誌	0誌	0誌	5誌	0誌	5誌

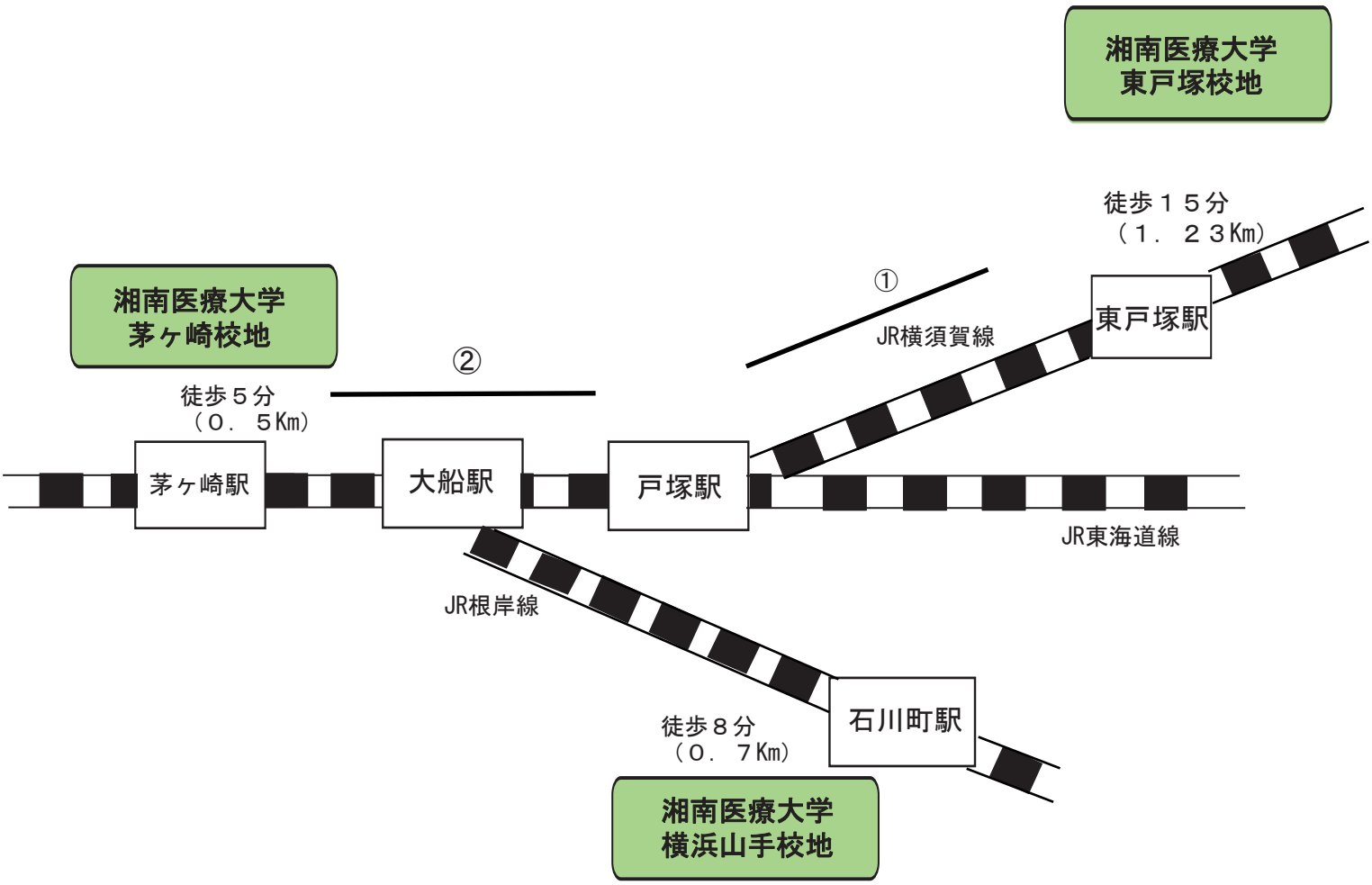
※1 雑誌合計数は、館ごとの数値の合計のため重複あり。（重複を除いた全種数は和：366種、洋：54種、合計：420種）
※2 電子ジャーナル合計数は、館ごとの数値の合計のため重複あり。（重複を除いた全種数は和：2種、洋：870種、合計：872種）
※3 データベース合計数は、館ごとの数値の合計のため重複あり。（重複を除いた全種数は和：6種、洋：19種、合計：25種）
和：①医中誌Web、②系統別看護師・保健師国家試験問題Web、③メディカルオンライン、④最新看護索引Web、⑤J-DreamⅢ、⑥医書.jpオールアクセス
洋：①The Cochrane Library, ②MEDLINE with Full text, ③CINAHL Plus, ④ProQuest Nursing and Allied Health Source, ⑤ScienceDirect, ⑥Scopus
⑦ACS All Publications , ⑧Annual Reviews, ⑨Taylor&Francis Medical Library, S&T Library, ⑩Rockefeller University Press , ⑪Nature ／Nature Medicine
⑫PsycInfo , ⑬EMBASE, ⑭DRUGDEX®, ⑮CAS SciFinder Discovery Platform , ⑯J DreamⅢ Dialog®, ⑰BMC , ⑱SpringerLink, ⑲SAGE Journals
※4 新聞は朝日・読売・日経・日刊工業・The Japan Newsの5誌、朝刊のみ。

【資料08】
東戸塚キャンス・茅ヶ崎キャンパス間の移動図

東戸塚校地から茅ヶ崎校地までの移動手段

・距離　　23.63Km
・移動時間　約45分
・交通手段
東戸塚校地→(徒歩)→東戸塚駅→(JR横須賀線)→
戸塚駅→(JR東海道線)→茅ヶ崎駅→(徒歩)→茅ヶ崎校地

①JR横須賀線 東戸塚駅～戸塚駅　(3分)　4.2Km
②JR東海道線 戸塚駅　～茅ヶ崎駅(17分) 17.7Km
乗り換え＋待ち含め約25分



【資料09】2キャンパス 講義演習シュミュレーション

2キャンパス演習シュミレーション【(例)ナーシングスキルⅠ　スケジュール】

演習の科目でも、実際の演習が必要な回のみ、教員のキャンパス間移動を行う。

週	曜日	限	course contents		方法	単元担当		アソシエイト教員	教員数の合計（単元担当を除き）
			東戸塚	茅ヶ崎		東戸塚	茅ヶ崎		
1週目	月	1･2限	ガイダンス･概説環境･(環境)**【講義形式】**		対面	●	●	基幹教員が各々のキャンパスで講義、教室に1名教員配置	東戸塚―1名 茅ヶ崎―1名
	火	1･2限	(感染予防)**【演習形式】** 3人一組29ベッド		対面	7	3	茅ヶ崎C教員が東戸塚に移動	最低10名
	水	1･2限		(感染予防)**【演習形式】** 3人一組26ベッド	対面	2	7	東戸塚C教員が茅ヶ崎に移動	最低9名
2週目	月	1･2限	(ボディメカニクス)**【講義形式】**		zoom中継	zoom	●	主担当以外に、各教室に1名の教員を配置	東戸塚―2名 茅ヶ崎―1名
	火	1･2限	(環境整備)**【演習形式】** 3人一組29ベッド		対面	7	3	茅ヶ崎C教員が東戸塚に移動	最低10名
	水	1･2限		(環境整備)**【演習形式】** 3人一組26ベッド	対面	2	7	東戸塚C教員が茅ヶ崎に移動	最低9名
3週目	月	1･2限	(移送･移動)**【講義形式】**		zoom中継	●	zoom	主担当以外に、各教室に1名の教員を配置	東戸塚―1名 茅ヶ崎―2名
	火	1･2限	(ボディメカニクス)**【演習形式】** 3人一組29ベッド		対面	7	3	茅ヶ崎C教員が東戸塚に移動	最低10名
	水	1･2限		(ボディメカニクス)**【演習形式】** 3人一組26ベッド	対面	2	7	東戸塚C教員が茅ヶ崎に移動	最低9名

◎赤字は移動教員数